

平成 27 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 聖ヨハネ会

社会福祉法人聖ヨハネ会

基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力を努めます。

活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差し伸べ、その必要に応じて最善を尽くします。

平成 27 年度事業報告

目 次

一	法人本部事業報告	1
二	事業経営	7
	1 障害福祉部門	7
	2 高齢福祉部門	22
	3 医療部門	52
	4 公益事業部門	62
	5 収益事業部門	65
三	理事会並びに評議員会	66
四	経営会議	69

一 法人本部事業報告

【はじめに】

今年度は法人の中期行動計画（平成 26 年度～28 年度）の 2 年目であり、前中期行動計画から引き継ぐ形で中期的な行動内容について①サービスの質の向上②公益的取り組みの推進③トータルな人材マネジメントの実現④組織統治（ガバナンス）の確立という 4 つの視点で取り組んだ。

このうち「サービスの質の向上」では市民健診を予約制に移行しスムーズな受診ができるようにした。また診療の電話予約制を取り入れ、サービスの充実を図ることができた。さらに高齢者のデイサービスの空き状況などを法人のホームページに掲載することも進めた。「公益的取り組みの推進」では、桜町病院が中心となり市民講座を開催した。（平成 27 年 6 月に「熱中症について」同 9 月に「認知症について」）その時々タイムリーな講座やセミナーを地域に向けて開催出来た。

また、既存の制度では解決が難しい地域のニーズを見つけ、社会貢献・地域貢献として取り組んだ実践事例を東京都社会福祉協議会が募集したことを受けて、高齢福祉部門で実践したフィッティングサポート事例を提供し、東社協のホームページに掲載され、広報誌「福祉広報」にも掲載された。

今年度は滋賀県で第 34 回全国社会福祉法人経営者大会が開催され、社会福祉法人の日ごろの実践や新たな試みといった経営実践事例を紹介する機会があり、「中期行動計画をどうやって策定するか」という内容で選考会へ応募した結果採用され、事例集への掲載と本大会での発表機会をいただくこととなった。

「トータルな人材マネジメントの実現」については、昨年に引き続き平成 27 年 11 月に法人全体を対象としたボーリング大会を小金井市で開催し職員の交流を図った。またこれまでなかなか実現できなかった法人全体での合同研修について、東京都社会福祉協議会の派遣講師制度を活用して実施した。さらに各事業のことを知る機会を設けることを試み、「職場紹介」と称して持ち回りでそれぞれの職場を紹介する場を設けた。

「組織統治（ガバナンス）の確立」では、新会計基準による会計がスタートし、同じ基準での会計処理を行うことでここでもまた法人全体の統一感を持つこととなった。マイナンバー制度の開始、ストレスチェック制度の導入に対応するための法人全体での協議の場を持つこととした。

昨年からはじめた法人レクリエーションに続いて、法人合同研修や職場紹介、マイナンバー制度の説明会と法人全体で実施する研修・イベント・説明会が増えたことが職員交流もありいい雰囲気であるように感じる。職員へのアンケートでも他事業所の職員との交流をもっと増やしたいと希望があり、他事業所のことを知りたいという意見も多いことから、今後も法人全体の動きを考えていくとともに定例化していきたい。

また経営実践事例や社会貢献事例を情報発信していくことは当法人を知っていただく最もいい機会であり、職員が日頃実践している業務内容を振り返ることが出来るいい機会でもある。ある法人では管理者になるための要件に実践事例の発表が課されており、こういったことが重視されていることを裏付けている。このことについては、これからも積極的に実践していく機会を設けることを考えたい。

各事業については、障害福祉部門においては富士聖ヨハネ学園がリニューアルし新しい建物での支援スタートとなった。また富士吉田市に次いで忍野村からも福祉避難所としての協定の締結依頼があり、地域のインフラとして活用されている。また東京地区では梶野町に小金井聖ヨハネ支援センターが完成し、こちらも新しい建物での支援スタートとなった。通所機能を有し、一部富士聖ヨハネ学園利用者の地域移行の場所としての機能も持ち、就労部門ではパン工房を初めて手掛けるといった展開となっている。

桜町病院では、2年間続いた赤字経営を是が非でも黒字にすることを最大の課題とし取り組んだ。特に補充が難しかった看護師を確保し、必要とする医療を提供できる体制が整った。特にホスピス病棟は予定の看護師の体制が整ったことにより患者数が増え収入が大幅に増加したが黒字化までには至らなかった。電子カルテ・オーダーリングシステムも開始から1年半を過ぎ、大きなトラブルもなく運用させることができている。また10月からは看護師の「コンシェルジュ」を外来受付周辺に配置し、来院者のご案内や相談に応じた。

高齢福祉部門においては、財務改善プロジェクトの1年目となるが、在宅サービス部門では休日稼働などの地道な努力に加えて、複数ある事業について選択と集中により従事職員数の適正化を図った結果、収支改善を達成することができた。施設サービス部門においても待機利用者への早くからのアプローチやショートステイを有効利用していただく工夫をするなど、プロジェクトの働きかけが功を奏し、こちらも収支改善の兆しが見える。

社会福祉法人を取り巻く環境については、地域包括ケアシステムに代表されるとおり、事業所単体の活動によるサービス展開から分野の連携を図ることでの切れ目のないサービスの提供が求められている。折しも地方自治体の実施主体となっている「地域支援事業」について、小金井市などから認知症への早期対応に関する協力病院としての役割や、在宅医療と介護の連携を推進するための相談受付業務などについて、協議していくあるいは事業を委託したいといった投げかけがある。市内では最も大きな病院と2か所しかない特養のうちの1か所を有する法人として期待される実情は十分に理解できることではあるが、行政機関はもちろんのこと医師会などとも連携して地域システム構築のために協力していきたいと考える。

最後に、社会福祉法等の一部を改正する法律が改正された。今後厚生労働省からの通知が発出され、定款準則などの具体的内容が明らかになった後に対応していくこととなる。

【事業報告】

1. 新会計基準による予算・決算を実施した。法人全体で実務者協議を何度か重ね、勘定科目を整理し処理方法等についての確認・意見交換を交わしてきた。また総括表についてもソフト上での自動集計が完成することを目標に法人本部と各事業所のデータやり取りの構築を進め作成した。

2. 法人本部機能について

(1)経営実践事例の発表

前述のとおり社会福祉法人の経営実践事例について、全国社会福祉経営者協議会から募集があり、「中期行動計画をどうやって策定するか」という題で応募したところ、紹介事例として採用され同協議会のホームページにその内容が掲載された。また9月に開催された同経営者大会での発表依頼があり、実践事例として発表した。

(2)法人合同研修の開催

東京都社会福祉協議会が登録講師を派遣し研修会を開催するという事業を行っており、法人の合同研修の場として活用した。また法人の職員を講師として部門を越えた研修も実施することができた。今年度は4回の合同研修を開催している。内容は以下の通りである。

○開催日：平成27年7月17日（金）18：30～20：30

開催場所：本館戸塚ホール

研修名：サービスマナーを踏まえた介護とは

講師：認定NPO法人語らいの家 理事 ホーム長 市川裕太氏

参加者：桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、富士聖ヨハネ学園、障害者地域生活支援センターから計24名

○開催日：平成27年9月14日（月）18：00～20：00

開催場所：本館戸塚ホール

研修名：「伝わるコミュニケーション」を進めるために

講師：社会福祉法人東京聖新会 理事 施設長 尾林和子氏

参加者：法人本部、桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、富士聖ヨハネ学園、障害者地域生活支援センターから計28名

○開催日：平成28年1月14日（木）18：00～20：00

開催場所：本館戸塚ホール

研修名：自施設の認知症支援について考えよう！！

講師：認定NPO法人語らいの家 理事 ホーム長 市川裕太氏

参加者：桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害者地域生活支援センターから計26名

○開催日：平成28年2月12日（金）13：30～15：00

開催場所：富士聖ヨハネ学園 ソフィアホール

研修名：ヨハネ会高齢福祉部門におけるターミナルケアについて

講師：聖ヨハネ修道会 シスター 三ヶ部女久美氏

参加者：富士聖ヨハネ学園、富士北麓聖ヨハネ支援センター、桜町病院から計51名

(3)「職場紹介」の開催

今年度より法人内の交流を目的として「職場紹介」の機会を設けた。これは他事業所がどんな仕事をしているのか、また自身が所属する事業所の各部署などがどんな業務をやっているのか等を紹介することで、職員がより深く法人のことを知ることが狙いである。今年度は発表形式の場を設けたが、発表の内容を広報誌のようにして配布することも検討していきたい。

○日時：平成27年8月7日（金）18：00～19：00

場所：本館戸塚ホール

発表内容：障害者の地域移行に関するコーディネート事業について

発表者：障害者地域生活支援センター 副センター長 勝見 正

参加者数：20名

○日 時：平成27年12月2日（水）18：00～19：00

場 所：本館戸塚ホール

発表内容：老いから看取りまで

発表者：桜町高齢者在宅サービスセンター

在宅サービス部在宅サービス課 課長 大神田豪
桜町聖ヨハネホーム

施設サービス部生活支援課 課長代理 遠藤憲彦

参加者数：27名

(4) マイナンバー制度への対応

平成28年1月から実施されるマイナンバー制度について、制度の理解のための説明会へ参加をし、法人として取り組むことまた職員へ依頼することを整理した。また特定個人情報であることから各事業所における取扱者を理事長名で任命した。

(参加説明会)

平成27年9月1日（火）開催

福祉施設・事業所に求められるマイナンバー制度の理解と対応

講師：有限会社福祉事務企画 認定アドバイザーコンサルタント 山本伊都子氏

主催：東京都社会福祉協議会 東京都福祉人材センター

(職員向け法人内説明会)

平成27年9月24日（木）東京地区第1回目説明会

平成27年9月29日（火）東京地区第2回目説明会

平成27年9月30日（水）東京地区第3回目説明会

平成27年10月2日（金）山梨地区説明会

(5) 商工会の勉強会へ参加

これまで小金井市の地元商工会とは接点を持たせていただく機会がなかったが、社会福祉法人の地域貢献が言われる中、法人として何かお役に立てることがないか、また法人の認知度を高めることで利用していただく機会を広げていくことができないかを考え、まず接点を持つことを目的に、商工会が主催する勉強会へ参加した。

勉強会名：こがねい未来塾2015

開催日程：平成27年9月28日～11月9日の毎月曜日 18：30～21：00

計6回

開催内容：経営革新計画の策定について

参加者：法人本部 竹川和宏

3. 事業運営に沿った規程類の整備について

マイナンバー制度開始に伴う特定個人情報取扱規程の策定検討を進めた。またマイナンバー法及びストレスチェック制度の導入に伴い就業規則を改訂した。

また、桜町病院、高齢福祉部門及び障害福祉部門の組織規程について改訂した。

4. 小金井訪問看護ステーション、聖ヨハネホスピスケア研究所、シニアハイムさくら及び障害者地域生活支援センター関連の、会計業務及び事務業務をサポートした。

5. その他活動については、後述の経営会議の活動実績を参照されたい。

6. 庶務・登記・監査事項等

1) 定款変更認可申請

平成 28 年 2 月 18 日認可

認可内容：障害者支援施設の建て替えによる変更（富士聖ヨハネ学園）

障害福祉サービス事業の建物新築による変更（小金井聖ヨハネ支援センター）

2) 登記

登記年月日	登記内容
平成 27 年 5 月 25 日	資産総額（5,057,092,803 円）
平成 27 年 6 月 23 日	基本財産 （山梨県南都留郡忍野村忍草字城ヶ腰所在の富士聖ヨハネ学園の建物 6,698.16 m ² ）
平成 27 年 6 月 23 日	基本財産（閉鎖） （山梨県南都留郡忍野村忍草字城ヶ腰所在の富士聖ヨハネ学園の建物 3,623.7 m ² ）
平成 27 年 6 月 30 日	基本財産 （東京都小金井市梶野町五丁目所在の障害福祉サービス（生活介護・就労移行支援・就労継続支援 B 型・共同生活援助・短期入所）小金井聖ヨハネ支援センターの建物 1,076.19 m ² ）

3) 指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
平成 27 年 5 月 8 日	決算監事監査	村松監事、駒村監事、小俣監事
平成 27 年 10 月 6 日、14 日	平成 27 年度障害福祉サービス事業所等の実地指導	山梨県福祉保健部監査指導室
平成 27 年 10 月 8 日～9 日	平成 27 年財政援助団体等監査	東京都福祉保健局総務部契約管財課
平成 27 年 10 月 16 日	指定介護老人福祉施設・指定介護機関・短期入所生活介護事業・通所介護事業実地検査	東京都福祉保健局指導監査部指導第一課施設サービス係
平成 28 年 3 月 14 日	平成 27 年度社会福祉法人等指導監査	山梨県福祉保健部監査指導室

4) 調査等

提出年月	提出内容	提出先
平成 27 年 5 月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
平成 27 年 6 月	社会福祉法人調査票 現況報告書	東京都福祉保健局指導監査部指導調整課指導調整係
平成 27 年 7 月	事業報告書	独立行政法人 福祉医療機構
平成 27 年 7 月	省エネ法改正に伴う特定事業者の中長期計画書、定期報告書	関東経済産業局 関東信越厚生局

二 事業経営

1. 障害福祉部門

【 総 括 】

(富士聖ヨハネ学園)

平成 27 年度は社会福祉法人等の一部を改正、障害福祉サービス等の報酬改定、障害者総合支援法 3 年目の見直しの 3 つが大きな国の動きであった。

平成 28 年 3 月に社会福祉法人等の一部を改正する法案が国会で成立した。社会福祉法人の制度改革については、制度創設から 60 年余を経過して初めての大きな改革となる。

報酬改定では平成 28 年 1 月の大臣折衝にて改訂率は±0 ということになった。当部門での報酬改定の大きな影響は受けなかったようである。

また障害者総合支援法 3 年目の見直しについては一年をかけて進めて行くことになり法案が年度末に国会に提出された。「障害者の望む地域生活の支援」「障害児支援の多様化へのキメ細かな対応」「サービスの質の確保・向上に向けた環境整備」の 3 点から平成 30 年に向けて実施できるところから進めていくこととなる。障害者の権利条約を締結したことにより制度がまだまだ変わっていくと思われる。

東京都の運営補助金であるサービス推進費の支給見直しがあり平成 26 年度に本施行となったが、平成 27 年度はその増減に関する動きはなかった。

福祉医療機構の退職手当共済制度の公費補助については平成 28 年度から廃止が決定され、同年度の新規採用者はその補助対象外となってしまったため、入職年月を 3 月に前倒しした。

施設の建て替えに伴う借入金返済については、富士聖ヨハネ学園については福祉医療機構と民間銀行へ、富士北麓聖ヨハネ支援センターについては福祉医療機構への利息及び元本の一部返済が始まった。

(障害者地域生活支援センター)

平成 27 年 4 月に都内にあったグループホームを小金井地区および清瀬地区に分けてユニット化し、統一した利用者支援を行う為の事業編成を行った。5 月には地域で生活する障害者の生活をサポートする地域拠点として、小金井聖ヨハネ支援センターを開所した。これらの事業再編や整備と平行し、組織としてより良いサービス提供体制と働きやすい職場環境の構築に向けて、諸規定やマニュアル等の整備も行った。

景気の回復により企業等による積極的な雇用活動も活発になったことから福祉事業では求人難の状況が顕著となっているが、当センターも例外ではなく平成 26 年度より雇用環境は厳しい状況となっている。より良いサービス提供に向けてゆとりのある人材確保を目指して採用活動を積極的に展開したものの、法に定められた配置基準を満たすことが精一杯であった。また、必要とする障害福祉の人材確保については求人媒体の費用対効果には比例せず、通年を通してハローワーク等に求人をかけている現状である。

小金井支援センターの就労事業であるパン工房は、5 月開所当初から試験製造や試験販売等を行い、販売に向けての製造過程や販売方法等の確立および生産能力、就労支援適性、収支の確認を行った。平成 28 年までの中期行動計画としてハード面での全体像は完成したところであるが、人材育成や組織力の強化等は途上である。また、地域社会との関わりがなお一層大切な今日において、広い視野で今後の事業の方向性を見定めていく必要がある。

I 富士聖ヨハネ学園
(生活介護・施設入所支援・短期入所)

【平成 27 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H27度)	利用率(H26度)	利用率(H25度)
生活介護 H26.12～	154名	140名	90.9%	86.8%	88.3%
施設入所支援 H26.12～	122名	116名	95.3%	88.5%	90.6%
短期入所 H26.12～	6名	6.5名	61.5%	72.5%	43.3%
相談支援事業	—				

平均年齢 46.9歳 (最高 78歳、最低 19歳)

男女比率 74名(男子) : 68名(女子) 52 : 48

平均在所期間 21.7年 (最長 43.7年)

年間入所 1名 年間退所 6名

【職員】

	平成27年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成28年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
園長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
副園長	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生活支援員	68	30	98	8	3	6	2	14	5	73	34	107
事務員	4	2	6	1	0	0	1	1	1	5	1	6
栄養士・調理員	5	10	15	0	0	1	3	1	3	5	8	13
設備等	2	5	7	0	0	0	0	0	0	2	5	7
医師	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
看護師	3	2	5	0	0	1	0	1	0	3	3	6
医療事務員	0	1	1								1	1
合計	83	51	134	9	3	8	6	17	9	89	53	142

平均年齢 45.3歳

【施設運営状況】

富士聖ヨハネ学園の改築に関しては、平成 26 年 10 月に建物も完成し、外構工事も平成 27 年 3 月には終了して新しい学園が始まった。利用者さんは、新しい生活の場所であるソフィア棟・フィリア棟での個室での生活を楽しんでいる。それに伴い職員の体制も 2 課体制をとることになった。まだ始まったばかりの体制なのでこれからもより良い体制を作るために検討をしていきたい。学園で生活されている利用者さんは平成 28 年 3 月末時点で 118 名であるが、平成 27 年度中に 3 名の方が退所された。1 名の利用者さんは地域移行され東京での生活を始めた。2 名の利用者さんは高齢の方で病院にてご逝去された。今年度は「利用者個々の特性・ニーズにあった個別支援計画にもついた支援を」、「医療を必要とする利用者が今後増えることから、近隣の病院・クリニックの支援体制を確実にとれるよう連携していく」という 2 つの目標を立てた。利用者さんに合った生活作りについては個別支援計画の立て方を再検討している。この課題については来年も引き続き進めていきたい。もう 1 つの課題である医療との連携では地域の病医院に理解をいただいて進められていると感じる。来年度も高齢者の支援の一環として医療との連携を進めていきたい。（富士吉田市立病院、マーブル歯科との医療協力契約）

障害者支援施設

生活介護定員 154 名 現員 150 名（3 月末）

施設入所定員 122 名 現員 118 名（3 月末）

【利用者支援状況】

◎入所施設利用定員は 122 名であるが 3 月末では 118 名の方が利用されている。

平成 27 年度、退所者は 3 名である。（男性 3 名）

1 名は地域移行され東京での生活を始めた

2 名は高齢の方で病院にてご逝去された

◎在籍者 118 名の内 64 名の方が強度行動障害者の国の支援加算を算定している。

また 24 名の方が東京都の最重度障害者加算となつている。

高齢者の方では介護を要する方が男性 10 名女性 15 名（うち 16 名の方が車いすを使用している）

◎高齢化が進んだ利用者さんへの支援と強度行動障害者支援を来年度も進めていく。

（入所者 118 名のうち 50 歳以上が 63 名 53.4% 60 歳以上も 26 名 22.0%に）

【その他】

◎ 災害に対する対策の推進

富士山の噴火、東南沖海地震などに対応する対策において忍野村・隣接している富士吉田市との防災協定を結ぶことができた。また山梨県知的障害者支援協会との防災協定も結ぶことが出来た。施設内の防災対策は過去に作った対策であり、早急に新しい施設の体制に作り変えていかなければいけない。その際に忍野村との話し合いも必要である。

◎ 権利擁護に基づく支援の徹底・職員の意識・資質・専門性の向上

「個々の職員が目的と目標を持って主体的に業務に取り組む体制作り、意識の共有化、生涯福祉に関する知識の浸透および介護技術の共有、向上に努める」の問題については第三者評価、職員の聞き取り調査、セルフチェック実施などを実施した。来年度は今年度以上に努力を続け

ていかなければいけない。

【施設整備状況】

パソコンサーバーの入れ替え、浄化槽のオーバーホールを行った。今年度は特に大きな支出はなかった。

平成27年度

I 富士聖ヨハネ学園（生活介護・施設入所支援・短期入所）

【教育研修】

研 修 名	月 日	場 所	出 席 者
新任職員研修会	3月26日～27日	学園研修室	9名
コミュニケーションと接遇マナー研修	6月12日	青少年センター	5名
関東地区知的障害者福祉関係職員研修会	7月7日～8日	高崎市	6名
小金井研修（法人理念と歴史を学ぶ）	11月12日～13日	聖霊修道会マリア館	9名
感染症対策の研修	12月9日	ソフィアホール	22名
障害者差別解消法の理解のための研修	2月9日	富士ふれあいホール	18名
ターミナルケア（法人研修）	2月12日	ソフィアホール	49名
虐待防止と人権擁護研修	2月10日25日	ソフィアホール	107名
5施設共催研修（人権と権利擁護）	3月5日	学園リハビリ棟	100名
強度行動障害者支援者養成研修	3月16日～17日	青少年センター	5名

※本年度主な研修 計 54回の研修 延べ外部研修177名、園内研修376名参加

II 山梨地区グループホーム（共同生活援助 介護サービス包括型）

II 山梨地区グループホーム（共同生活介護・共同生活援助）

【平成 27 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H27度)	利用率(H26度)	利用率(H25度)
河口湖聖ヨハネケアービレッジ	10+1	10.2名	92.4%	98.4%	99.2%
明見聖ヨハネケアービレッジ	7名	7名	100%	100%	100%
城山聖ヨハネケアービレッジ	7名	6.8名	97.6%	100%	-----
忍野聖ヨハネケアービレッジ	7名	7名	100%	100%	100%

平均年齢 51歳（最高68歳、最低22歳）

男女比率 15名（男性）：16名（女性） 48：52

平均在所期間 7.5年（最長23.5年）

年間入所 2名 年間退所 3名

【職 員】

	平成27年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成28年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	7	9	16	0	0	0	0	0	0	7	9	16
合計	7	9	16	0	0	0	0	0	0	7	9	16

平均年齢 55.1歳

【施設運営状況】

河口湖 CV に入居していた方が養護老人ホームへの入所を希望し、援護の実施機関も認めたために、7月半ばに退去した。それ以降、河口湖 CV は1名欠員状態が続いている。

他の CV はすべて定員に達している。

【利用者支援状況】

利用者の高齢化、身体状況の変化に伴い河口湖 CV、忍野 CV の利用者の支援区分が上っている。

河口湖 CV 入居者の1名が現在「難病指定」の申請を行っていることをはじめとし、医療的対応が必要なケースが増えてきている。

1. 利用者支援区分の変化（小数点第3位切り捨て）

CV名	平均支援区分(27年4月1日)	平均支援区分(28年3月31日)
河口湖	2.27	→3.00
城山	4.28	4.28
明見	4.85	4.85
忍野	4.28	→4.85

2. 利用者の年齢状況（平成27年8月1日時点）

区分	河口湖	城山	明見	忍野
10代				
20代	1	2	2	
30代				
40代	4	2		1
50代	3	2	4	2
60代	2	1	1	4
	10人	7人	7人	7人

【施設整備状況】

特記なし

Ⅲ 富士北麓聖ヨハネ支援センター
(生活介護/就労継続支援 B 型/短期入所)

【平成 27 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率 (H27 度)	利用率 (H26 度)	利用率 (H25 度)
就労継続 B 型	15 名	10.1 名	67.6%	87.2%	-----
生活介護	35 名	17.0 名	48.7%	41.4%	-----
短期入所	3 名	2.0 名	65.4%	33.1%	-----

平均年齢 35.6 歳 (最高 61 歳 最低 18 歳)

男女比率 20 名 (男子) : 14 名 (女子) 59 : 41

平均在所期間 1.9 年(最長 1.11 年)

年間入所 10 名 年間退所 7 名

【職 員】

	平成 27 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 28 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	15	4	19	0	1	2	3	2	1	14	3	17
看護師	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	16	4	20	0	1	2	3	2	1	15	3	18

平均年齢 42.6 歳

【施設運営状況】

1. 利用状況

➤ 就労継続支援 B 型

年間延べ利用者数 2,739 人 年間開所日数 270 日 一日平均利用者数 10.1 人
定員 (15 人) に対する利用率 67.6%

➤ 生活介護

年間延べ利用者数 4,605 人 年間開所日数 270 日 一日平均利用者数 17.0 人
定員 (35 人) に対する利用率 48.7%

2. 取得加算状況

➤ 就労継続支援 B 型サービス費 (Ⅱ) から (Ⅰ) に変更 (5 月 1 日)

➤ 常勤看護職員等配置加算 取得 (5 月 1 日)

➤ 目標工賃達成指導員加算 取得 (9 月 1 日)

3. 主たる対象者の変更

従来の身体障害者 (肢体不自由)・知的障害者・難病等対象者に、地域のニーズに応えるために新たに精神障害者を加えた

【利用者支援状況】

1. 生活介護

▶ 利用者の支援区分状況（28年3月末日現在）（ ）内は車椅子使用者

区分	男性	女性
6	3 (1)	4 (4)
5		4
4	2	3
3	5 (1)	
2	1	

▶ 利用者の年齢状況

区分	男性	女性
10代	2	1
20代	5	2
30代	2	2
40代	1	
50代		3
60代	1	3

▶ 活動内容

創作活動：張り子の人形作り等、受注作業：チラシ入れ・部品の組み立て等
リハビリ活動：歩行訓練・マッサージ等、ADL支援：入浴介助等

2. 就労支援B型

▶ 利用者の支援区分状況（28年3月末日現在）（ ）内は車椅子使用者

区分	男性	女性
3	2	1
2	2	1
なし	3	3

▶ 利用者の年齢状況

区分	男性	女性
10代	1	1
20代	3	1
30代	1	
40代	1	1
50代	1	2

▶ 活動内容

かわらけ製作・納入、手焼きせんべい製造・販売、受注作業・納品
農作業・野菜類の販売、学園車洗車・清掃、リサイクル品の回収・出荷

【施設整備状況】

物置2台設置

【教育研修】

研 修 名	月 日	場 所	出 席 者
インドの障害者福祉の現状を知り 私たちの仕事を振り返る（自主事業）	5月17日	富士北麓聖ヨハネ支 援センター	16名
日本トリック児童施設協会全国大会	6月25日～26日	金沢 ANA ホテル	2名
モチベーションアップ研修	7月13日～14日	かいてらす	1名
OJT 研修	8月12日	かいてらす	1名
てんかん診療の実態	8月28日	敷島総合文化会館	4名
発達障害における就労と準備	10月19日	ピュア総合	1名
虐待防止研修	11月26日	ピュア総合	1名
スウェーデンの福祉施策から学ぶこと	1月16日	クラウンパレス	1名
障害者差別解消法研修	2月9日	ふれあいセンター	1名
ターミナルケア（法人研修）	2月12日	富士聖ヨハネ学園	3名
災害時の看護職員の役割	2月13日	山梨県看護協会	1名
相談支援現任者サポート研修	2月22日	ピュア総合	1名
5施設共催研修（人権と権利擁護）	3月4日	富士聖ヨハネ学園	4名
普通に生きる～自立をめざして～	3月5日	竜王図書館	3名
強度行動障害者支援者養成研修（基礎）	3月16日～17日	青少年センター	2名
強度行動障害者支援者養成研修（実践）	3月22日～23日	青少年センター	2名

IV 障害者地域生活支援センター

(共同生活介護・共同生活援助・就労移行支援・就労継続支援)

【平成 27 年度の特記事項】

1) 事業の再編と拠点構築

5 月開所に伴い小金井聖ヨハネ支援センターは、東京地区における障害福祉サービス提供の地域拠点、および組織拠点としての両方の役割を担うこととなった。よって、「障害者地域生活支援センター」は、本部桜町構内から梶野町へ事務管理部を移し名実ともに東京地区の拠点名を称している。

これに先立ち、4 月にグループホームを再編し小金井地区 1 事業所 7 ユニット、清瀬地区 1 事業所 4 ユニットの体制とした。小金井地区の日中活動は、既存の小金井聖ヨハネワークセンターを就労継続支援 B 型の単独事業所とし、小金井聖ヨハネ支援センターが就労移行支援事業を引継とともに、就労継続支援 B 型事業および生活介護事業を新規に開設したところである。短期入所事業は、小金井地区は 5 月に、清瀬地区は 10 月にそれぞれグループホームの併設型事業所として開設している。

これにより、2013 年に清瀬市内にグループホーム 2 ユニット及び清瀬聖ヨハネ支援センター(生活介護)を開設し、2014 年にふらっとヨハネ(計画相談)を開所したことで、上記のグループホーム再編と小金井聖ヨハネ支援センターの開所を併せ、中期行動計画(2012～2016)による事業としての全体像は完成した。

2) 組織体制の強化

法人理念の下により良いサービスを提供するため、山梨地区と共に組織体制を再構築した。これまでのサービス提供体制は組織規模も小さかったことから個人にかかる業務割合が大きく、「個人」の役割がそのまま組織の顔となっていた。しかし、2015 年度当初より職員数は 100 人を超すまでとなったことから、今年度においては支援センターとして「個人」ではなく「組織」として、所属する職員一人ひとりが一致したサービス提供をするために、組織体制の強化を行った。

組織体制として部課係を明確にし、指揮命令系統を単純化することとした。これにともない、小金井地区および清瀬地区に部長職を配置し、各地域での情報収集を強化し、より身近なサービス提供ができるよう組織体制を整えた。新たに部長を配置し、それぞれの地区のマネジメントを行うとともにリーダーシップを発揮することを明確化した。また、これまで正規職員数規模が小さかったことから配置できなかった係長を配置し、所属する現場職員の意見の集約や利用者支援等のリーダーシップを執ることとした。なお、各役職者は所属する職員がフォロワーとならなくてはリーダーシップも発揮できないことから、各職員の信頼を得ることが必要であり、自身を研鑽しなければならないところである。

組織を編成したことにより、小金井地区および清瀬地区に分けた組織編制とし、事務機能についても集約による効率化を計った。一方では、職員および利用者の増加による経理・庶務関係の仕事も多くなってきたことから、経理を行う職員を雇用した。また、各種諸規定やマニュアル等も障害部門として統一化を計りながら整理を行い、順次現体制に合うものとした。

3) 小金井聖ヨハネ支援センター開所

小金井聖ヨハネ支援センターの建築工事は2014年7月1日着工、2015年3月31日竣工、4月28日に竣工式を小金井市長始め小金井市内関係者や工事関係者にご参列を賜わり執り行った。6月12日には開所・感謝式を行い、市内関係事業所の方にも多数ご参加を頂いた。小金井聖ヨハネ支援センターとしては、事業が始まり利用者さんも落ちついたところで大きな祝福のもとに改めて開所の喜びと感謝を分かち合うことができた。

就労関係事業は市内在住の方や近隣自治体からの利用者も多く利用されている。さらに、各自治体や関係機関からの利用申込みも多く地域における就労支援機関としての役割の一端を担っているところである。

生活介護は開所年度でもあり当初利用者は7人であったが、次年度以降の利用希望も多く期待される分野である。

短期入所はグループホーム開所と同時期のスタートとなり、新人職員育成に時間がかかったことや慢性的な求人難(配置基準は満たしている)であったことから、職員体制の構築に時間がかかり本格稼働は半期後の10月からとなった。地域福祉としての役割が高い事業であることから小金井市及び小金井市内関係団体と協力しながら、より緊急度の高い利用者への支援を積極的に行っている。なお、10月には清瀬地区にて短期入所事業を開設し、地域からの利用者のもとより、清瀬市との連携により緊急対応の利用者の受入れを行った。

小金井聖ヨハネワークセンターはこれまで培ってきた就労移行事業のノウハウを基に、就労継続支援事業所として再出発した。法律により同一敷地内にあるグループホームから日中活動を利用することができないことから、小金井聖ヨハネ支援センター3Fにあるグループホーム(小金井聖ヨハネケアビレッジのユニットの一部)利用者の活動場所として、ワークセンターは位置づけされている。

4) 地域移行促進； 東京都地域移行促進コーディネート事業

東京都地域移行促進コーディネート事業は昨年度に引き続き聖ヨハネ会として受託した事業で、都外関東西ブロックの入所施設から都内への地域移行と事業の啓発、自治体・都内施設・相談事業等との連携を行った。グループホームの見学体験や地域移行経験者のピアサポートを通して、利用者等に地域生活の理解を深めて頂いた。

5月に富士聖ヨハネ学園から小金井および清瀬の各グループホームに地域移行された方には移行後も本人の状況を適宜確認し、生活状況の安定化を計った。また、この地域移行に併せてグループホーム内においても心身の状況等により移動を希望する利用者、利用者本人や家族等との相談調整にも丁寧に対応すると共に、移行後の本人の状況を把握しながら生活の安定に努めた。

【平成27年度利用状況報告】

2016.4.1 利用者状況	小金井CV	清瀬CV	小金井WC 就労継続B	小支セ 就労移行	小支セ 就労継続B	小支セ 生活介護	清瀬支セ 生活介護	全体
実人数	34	28	14	14	14	12	24	140人
平均年齢	50.4	46.3	40.3	22.1	32.7	32.4	43.3	41.2歳
男性 人数	18	14	11	7	9	7	12	78人
男性平均年齢	48.0	45.2	36.5	25.0	28.7	27.3	44.2	39.1歳
女性 人数	16	14	3	7	5	5	12	62人
女性平均年齢	53.1	47.3	54.0	19.3	40.0	39.6	42.3	43.8歳

【職員の状況】

2015年度 (H27)	平成27年3月31日		年間異動 4/1~3/31				平成28年3月31日		平成28年4月1日	
	職員数		正職員		非常勤職員・パート		職員数		職員数	
	正職員	非常勤職員・パート	就任	退任	就任	退任	正職員	非常勤職員・パート	正職員	非常勤職員・パート
生活支援・就労支援員等	20	61	11	1	25	14	30	72	31	76
事務・嘱託等	3	1	1		0	0	4	1	4	0
計	85		増減	11	増減	11	107		111	

サービスの質の向上や支援技術向上をめざし、今年度の採用計画や正規化転換登用により、いわゆる常勤雇用(週 40 時間労働)の割合が 53%と 5 割を超えた。

【施設の運営状況】

1. 労務管理 ・ 労働安全衛生

産業医参加のもとで、安全衛生委員会を定期的に開催した。感染症への対応や職場の健康づくりを目的としたアンケートを実施した。2016 年から始まるストレスチェックの参考となることから、このアンケート内容を分析し今後の職場環境の整備に活かしていきたい。労働災害事故報告はなかったが、私傷病による傷病手当金申請が 1 件あった。

2. リスクマネジメント(事故・虐待防止・苦情対応)

1) 事故

無断外出	警察に届出、翌日警察により保護される 職員体制の見直しと、夜間施錠の確認を徹底した
誤薬	本人の様子を確認すると共に、配薬方法を確認し、薬の服薬状況の確認を徹底した
異食	本人の様子を確認し、支援方法を再確認する
車両事故	事故喚起を行うと共に、運転技術の習熟を目指す

2) 虐待防止

虐待防止法に関する研修を行った。なお、本年において虐待防止法に基づく通報はなかった。

3) 苦情対応

本年度より第三者委員として小金井地区 2 人と清瀬地区 2 人の方にお願ひし、より地域に密着した相談体制を確立した。なお、本年度における苦情相談はなかった。

3 サービス向上

昨年度の清瀬聖ヨハネケアビレッジの現地検査の結果を基に今年度当初より個別支援計画の作成過程の見直しをおこない、統一した書式による計画作成、アセスメントおよびモニタリングの実施を徹底した。また、作成月についても支援センター内で統一する等 1 年を通しての年間予定を確認した。

なお、個別支援計画は以下の①および②をサイクルとして、原則としてグループホームや生活介護は 6 月ごとに、就労関係では 3 月ごとに行うことを確認し、場合によっては必要に応じて適宜見直しを行うこととした。

① アセスメント→ケース会議→支援計画作成・説明・同意

② 支援評価・モニタリング→ケース会議→支援計画作成

12月15日小金井聖ヨハネケアビレッジに対し東京都指導監査部の実地検査が実施された。書面による改善では、①非常災害時に関して不備がある(パイプ棚の転倒防止を行っていない)②預金の管理について、通帳と印鑑と一緒に管理している(管理者が同一のため、内部牽制体制が確保されていない)との指摘があった。これらの指摘事項については直ちに是正し、東京都に改善報告書を提出した。

4 防災訓練

小金井ケアビレッジや清瀬ケアビレッジは消防署立会いの下、利用者参加による夜間避難訓練を実施した。小金井支援センターや清瀬支援センターでは、自主防災訓練を実施した。

なお、10月には小金井支援センター西隣の第3小学校にて小金井市総合防災訓練に利用者および職員ともに参加し、災害訓練を体験した。

5 建物・設備

消防法改正に伴い、グループホームは自動火災通報装置の設置が義務づけとなり、4月1日付で小金井および清瀬の事業所に改善命令が出された。ただし、設置は3年間の猶予となっている。しかし、利用者の安全を鑑み、小金井および清瀬の各事業所(ユニット)で必要とされる設備を今年度中に導入し、消防法の対応を行った。ただし、小金井ケアビレッジの一部のユニットは、工事業者の関係から2016年4月施工となった。

小金井聖ヨハネ支援センターは防火管理者設置義務として消防署に届出をし、それと同時に備蓄品の購入を行った。グループホームのユニットである本町および下清戸は、建設後8年を経過し外壁等の点検補修が必要となっている。

なお、勤怠管理ソフトについては予算管理上導入が難しいと判断し、次年度移行予算等を確認しながら検討することとした。

6 実習生、ボランティア活動、見学受入

社会福祉専門学校から実習生の受入を行った。学生の学びの場の提供と共に、利用者に対する職員の対応等を見直す良い機会となった。

清瀬地区は昨年度から引き続きボランティア活動が活発に行われており、ボランティアの皆さんも利用者と顔見知りとなってきたことから、より安心した関係性のある活動が行われている。小金井地区では受入れも増えており、事業所としても積極的に受入れていきたい。

見学については地域の皆様を始め都内各所から多くの見学要望があり、各事業所を利用している利用者の譲許を確認しながら、可能な限り受入れているところである。

ボランティアや見学等により様々な方が事業所内に入っていることが、事業所として職員の対応や事業の運営を見直す良い機会となっている。

【職員研修】

2015 年度 研修計画および研修実施記録表					
2015	研修会名	申請中・予定・終了	日時	主催・会場	参加者氏名
4月	平成27年度新規入職者研修		2015/4/1	本部館	小樋山愛 米澤弥生 石崎治夫 小泉純子 坂井万里子
	平成27年度新人研修		2015/4/2 3		小樋山愛 米澤弥生 石崎治夫 小泉純子 坂井万里子
5月	東社協利用者支援研究会研修 「コミュニケーションスキル」		5/30	飯田橋 センブラザ	十二雅裕 篠崎千里 大津弘太 駒井菜々恵
6月	東社協新任者研修会		2015/6/12-13	いこいの村 あしがら	小樋山愛 小泉純子 石崎治夫
	平成27年度第1回東京都相談支援従事者初任者研修		2015/6/23.24	練馬文化センター	三浦和行 平田祐未
	福祉事業所の為のマイナンバー制度		6/26	飯田橋 センブラザ	小松 淳
7月	東社協利用者支援研究会研修 (記録の書き方)		7/29	研究社英語センター	屋敷りつこ 小泉純子 石崎治夫 下田直行
	サービスマナーを踏まえた介護とは		7/27	本部館戸塚ホール会議室	小樋山 愛
8月	東社協研修 強度行動障害者支援学習会		8/28	家の光会館	星野義幸 片桐章平 寺田真知子 新屋 悟
	第27回全国グループホーム研修会 仙台大会		8/24	仙台サンプラザホテル	勝見正 駒井菜々恵
	アンガーマネジメント		8/6	飯田橋 センブラザ	平田祐未 竹林昌代 西谷明
9月	H27精神障害者研修会『病院と地域の他職種連携を 考える、新たな長期入院を生まないために』		9/2.3	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	川副敬二
	平成27年度第1回東京都相談支援従事者現任研修		9/1 8.9	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	川副敬二
	伝わるコミュニケーションを進めるために		9/14	本部館戸塚ホール会議室	古賀大樹 赤澤龍哉 新屋悟
	人間力UP研修		9/16	研究社英語センター	志村美咲 鈴木美代子 石山真里子
	地域社会生活の実現と継続		9/18	研究社英語センター	吉廣一征
10月	平成27年度第1回知的障害者グループホーム 世 話人養成研修		9/19	研究社英語センター	田中風花
	食品衛生実務講習会		10/8	東久留米市立生涯学習セン ター まろにえホール	佐藤多恵子
11月	高年齢 ～高齢期 知的障害者の支援の実際と課題		10/24	飯田橋 センブラザ	宮寺 孝 平田祐未 渡部まゆみ
	サビ管研修		10/20.11/19.20 11/25.26	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	小林勇一 GH 柳沢しのぶ 介護 赤澤龍哉 GH
	医療安全とリスクマネジメント		11/7	飯田橋レインボービル	大津 弘太 坂井万里子
	知的発達障害者部会 第13回学習会		11/26	シャロームみなみ風	十二雅裕 赤澤龍哉 石崎治夫 小泉純子 小樋山愛
12月	東社協研修 新人研修		11/30	研究社英語センター	小樋山愛
	防火管理者講習		12/7-12/8	立川都民防災教育センター	赤澤 龍哉
	東社協研修 強度行動障害者支援学習会		12/17	飯田橋 レインボービル	下田直行 笠井祐介
	東社協研修 成年期を迎えたダウン症候群 特徴と 支援		12/16	飯田橋 レインボービル	木澤宏之 谷津田雪乃
1月	東社協研修 GHにおける世話人の役割		12/25	滝野川学園	石崎和世 伊藤大樹
	サービス管理責任者研修		1/6	練馬文化ホール	赤澤龍哉 小林勇一
	東社協研修 施設における看護職の役割		1/9	飯田橋 レインボービル	高木洋子 伊藤真貴子
2月	東社協研修 強度行動障害者指導者養成研修		1/21	英語センター	西川 公人
	東社協研修 事例報告会		1/23	飯田橋 レインボービル	大場 美歩
	東社協研修 新任研修 第3回		2/24	研究社英語センター	小樋山愛 小泉純子 石崎治夫
	東社協研修 GHにおける世話人養成研修		2/16	研究社英語センター	都志見 彩希 石山万里子
3月	東社協研修 GHにおける世話人の役割		2/17	滝野川学園	西谷 明
	東社協研修 利用者支援研究会 研修		2/27	飯田橋 レインボービル	平田祐未 赤澤龍哉
3月	東社協研修 GHにおける世話人の役割		3/18	シアター1010 足立区	門間正輝

【その他】

東京都社会福祉協議会知的発達障害部会、東京都発達障害者支援協会、小金井市/清瀬市自立支援協議会等への職員派遣を行った。

【各事業所の報告・特記事項】

地域支援部

1. 小金井ケアビレッジ/清瀬ケアビレッジ

小金井ケアビレッジでは7ユニット体制となり、職員支援体制が大幅に変わった直後の東京都の指導監査(実地検査)であったが、改めて事業所のあり方や支援方法等の見直しをすることができた。

清瀬ケアビレッジでは前年度よりの重点課題であった個別支援計画の作成体系を再構築し、職員相互の認識を強化すると共にサービス向上に努めた。

2. 小金井支援センター/小金井ワークセンター

就労移行では就職者が2名あり、本人の状況を確認しながら定着支援を行い本人が楽しくやりがいのある仕事として継続できるよう支援した。就労継続では、作業内容も増えたことやパン工房事業も試験製造したことで、活気の満ちあふれた様子が見られた。生活介護については、開所まもなくであり利用者職員それぞれが一步一步を踏みしめながら事業展開をしたところである。

3. 清瀬支援センター

開所2年が過ぎ、利用者それぞれの特性を活かした活動を行ったところであり、個々の生活スタイルにもゆとりがでてきたところである。一方では、定員一杯の利用率となってきたことから、今後の利用状況や職員状況を含めた事業所像を考える時期となっている。

4. 小金井短期入所/清瀬短期入所

小金井市、清瀬市および関係事業所との連携を図りながら、緊急度の高い地域生活者の利用を優先した。また、日中活動利用者の利用も通年通して見られたことから、新たに始めた事業であるが地域の社会資源として定着してきたことが伺えた1年であった。

5. ふらっとヨハネ

昨年10月よりサービス提供を開始し、本年度末実績では110名を超えるサービス利用計画作成を行った。また一方では、福祉サービスに繋がらない、社会生活上のさまざまな困難状況を相談できる場として必要不可欠な事業となっている。

2. 高齢福祉部門

【 総 括 】

2015年度は、高齢福祉部門の財務改善3ヶ年計画の実施1年目であった。

これは、2014年3月の理事会評議員会で高齢福祉部門の財務状況悪化が取り上げられ、早急の財務改善が必要とされ法人本部から事務局長を加えて、経営層と主任・副主任を中心にホームとセンターにそれぞれ財務改善プロジェクトチームを立ち上げ、隔週毎に財務改善会議を実施し進めたことに継続した流れである。

財務改善の柱は、ホーム、センターとも主に二点で、1) 利用率を上限まで上げる増収策 2) 経費見直しによる支出削減策であった。しかしながら、2014年度内での早期の財務改善は難しく2015年度からの財務改善三か年計画で三施設全体の黒字化と財務改善を図ることとなった。この為、高齢福祉部門では、2015年2月16日、2月17日、2月20日に、三施設合同の職員全体労務説明会を開催し厳しい財務状況を説明し、賞与・特別休暇の見直し等を含めた財務改善計画へ協力を求め、4月より本格的に財務改善3カ年計画の1年目の改善策を実施した。

まず赤字体質の起因は、措置費時代の組織運営が残り、全てトップが判断し決定するという、ワントップオールフラットの形から脱却できず、経営・財務改善を職員と共有し抜本的に実施できなかったことにあると考え、財務改善と並行して組織強化の為に、2015年4月に組織規程を定め、統括施設長をトップに階層型の部課長制に組織改編をしスタートした。また同時に、財務改善プロジェクト会議の働きと役割りも、それぞれ会議体の機能を明確にした新しい施設サービス部（ホーム）運営会議、在宅サービス部（センター）運営会議、高齢福祉部門経営会議に移行した。緊張感を持ち、係長以上による運営会議では、利用実績のモニタリングと改善策を図ることが徹底された。この結果、在宅サービス部である桜町センター・本町センターは年度に入りほとんどの部門で早期に目標値の達成が継続できて事業収支会計・資金収支会計とも黒字化を果たすことができた。これは、前年度から継続してきた財務改善プロジェクトの成果でもあり、役職者や一般職員に、事業計画と財務：数値目標が連動し責任を持つ意識が定着してきたことがあげられる。4年以上、大きな赤字を計上しているヨハネホームも、在宅サービス部同様に各種の改善を実施した。当該年度での事業収支会計の黒字まで到達していないが、資金収支会計では、黒字化を達成できた。

財務改善真っ只中であった高齢福祉部門は、2015年4月の介護報酬マイナス改定は大きな打撃を受けることにもなったが、それに沈むことなく経営層・職員が一丸となり改革を進めた年度として大きな前進の一步であった年度と言える。

2015年介護保険改正の大きな方針である『地域包括ケアシステム』については、医療と介護の連携が柱の一つとなっている。桜町聖ヨハネホームは、2014年度内に専任嘱託医が退職となり、法人内の桜町病院とは、これまでの協力病院としての連携関係を更に進めて2015年度より石島名誉院長を中心とした嘱託医チームが形成された。桜町病院の複数の専門医が特養の利用者を診て頂けたことは大きな強みとなっている。また今後、北東圏域の地域包括ケアシステムを進める上でも双方の連携強化を目指すものである。

I 桜町聖ヨハネホーム

(指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

【平成 27 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H27度)	利用率(H26度)	利用率(H25度)
介護老人福祉施設	106名	100.0名	94.3%	92.0%	87.2%
短期入所生活介護	8名	7.0名	87.1%	94.5%	94.1%

※定員 106 名の内、2 床：看取室・緊急ショート室（当該年度：緊急用 1 床を入所ベットへ切替）

平均年齢 87.8 歳（最高 102 歳、最低 63 歳）

男女比率 17：88（2016 年 3 月 31 日現在：105 名）

平均在所期間 3 年 7 ヶ月（最長 15 年 11 ヶ月）

年間入所 24 名（2014 年度入所：34 名・2013 年度入所：27 名・2012 年度入所：24 名）

年間退所 24 名（2014 年度退所：26 名・2013 年度退所：28 名・2012 年度退所：21 名）

【職員】

	平成 27 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 28 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
統括施設長	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
医師	0	5	5	0	0	1	0	1	0	0	6	6
生活相談員	2	1	3	1	1	1	1	2	2	2	1	3
介護支援専門員	(3)	0	(3)	0	0	0	0	0	0	(3)	0	(3)
介護員	28 (3)	18	46 (3)	6	3	3	7	9	10	31 (3)	14	45 (3)
看護師	5	2	7	0	0	0	0	0	0	5	2	7
機能訓練指導員等	1	3	4	0	0	1	2	1	2	1	2	3
管理栄養士	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2
調理員	4	8	12	0	0	0	0	0	0	4	8	12
事務員等	2	4	6	0	0	0	1	0	1	2	3	5
生活サポート	0	14	14	0	0	4	3	4	3	0	15	15
施設整備員	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	44 (3)	58	102 (3)	7	4	10	14	17	18	47 (3)	54	101 (3)

※上記表には管理宿直員含まず ※副園長（常勤）は機能訓練指導員兼務

※介護派遣職員 平成 28 年 3 月 31 日現在 夜勤専従員介護員 3 名

【施設運営状況】

1. 財務改善について

当該年度は、本格的にホーム全体で、施設目標を、『財務の改善・健全化を行い、財政を回復する（赤字からの脱却）』と、強く打ち出して財務の改善を実施した。

介護係は、ケアで防ぐことのできる入院回避（収入増）に取り組みその時の状況に合わせた丁寧なケアの実践をした。尚、紙おむつ見直しを行い業者変更なども行いコストの削減を実施した。

医務係は職員全体に、熱中症による脱水予防、手洗いの励行などの細かな注意喚起を日々実践し誤嚥性肺炎や脱水による入院は回避（収入増）された。

生活相談係は、入所の促進・空床の有効利用（収入増）に取り組み、入所検討会議での検討がスムーズになされる仕組みづくりや医務係や介護係と連携し、入所までの時間短縮（収入増）を図った。ショートステイの新規面談は44名に上り安定的な利用を目指した。運営会議においては毎週、収入増減が一目でわかる表を見ながら入所・ショートサービスの利用実績をみて、1週間での動きにも注意し対応策を練られるようにした。事務所にホワイトボードを置き、朝の申し送り時に職員一人一人も数値目標を認識できるように現在の在籍人数が一目でわかるようにした。尚且つ目標人数に達していなければその数字を赤で表し、まさしく今日1日が赤字であるのか黒字であるのか分かるようにした。

組織体が変更され、部課係長が責任を持ち、各係が業績を上げるために一丸となった一年であった。しかし、年末に入所者の予期せぬ転倒による入院が重なり、また年が明けて感染性胃腸炎が集団発症し、ショートサービスの利用停止やこれに伴う入所者の入院等により、今年度数値目標としていた予定の入所102名には及ばず、平均100.0人にとどまった。ショートステイ利用者も年間1日利用平均は7.0名であった。転倒リスク回避の取り組みも実施を開始している。

2. 入退所の動き

今年度はなるべくベッドが空いている期間が短くて済むよう工夫し、スムーズな入所がなされた。総計24名の新入所となった。退所は今年度総計24名。また、入院中の空きベッドをショートステイ利用者に充てるため、桜町病院との連絡を一本化して、スムーズな連絡調整ができるよう改善した。

ショートステイに関しては、新規利用者の開拓を実施して新規契約を44名行い、介護係と連携し継続利用に結びつくよう努めた。キャンセル対応や入院空床の利用がスムーズにいくようなシステムの構築を行った。

3. 財務状況について

今期は、財務改善3カ年計画の1年目にあたり、組織改編し本格的に収入増と支出削減を実施した。事業収支会計は、1年目での黒字化は難しく、単年度▲1011万円を計上した。

但し2014年度は▲1990万円、2013年度は▲4130万円であり、先々の建て替えのための原資として寄付金を法人本部で管理したことや法人運営費も計上する中で赤字幅を大きく減らしてことは、財務改善の前進の一步と考えている。

資金収支会計の決算額は、直接、財源・資金を減らすものと警戒し特に黒字化を必須とし進めていたが、今期は目標を大きく達成し、黒字562万円を計上することができた。

2014年度は▲173万円、2013年度は、▲1950万円であったので資金収支会計も大きな改善がみられた。

サービス活動の人件費率は、改善傾向が見られるものの75.9%で依然、高い水準にあり今後も財務改善計画の課題項目となっている。2014年度は75.18%、2013年度は78.11%であった。また今期の減価償却費は、2568万円が計上。2014年度2770万円、2013年度3160万円計上であり、これをカバーできる財務状況にはまだ至っていない。引き続き2016年度も財務改善三カ年計画の2年目で黒字化を目指す。

【利用者支援状況】

1. リスクマネジメント

例年実施の介護事故予防対策会議を今年度も開催し、各係・多職種でヒヤリハット事例及び事故報告書の分析、課題改善を実施した。

今年度は、年末に入所者の転倒による入院が重なったため、対策として転倒リスクに関するアセスメント表作成に着手している。

2. 感染症対策

食中毒とノロウイルス、インフルエンザについて、感染流行時期前に感染症対策委員が中心となり全職員対象に講義と実際の嘔吐の場合の処理の方法をDVDの作成をして、全員がいつでも見ることが出来るようにした。10月からは感染症流行時期ととらえ具体的な対応として嘔吐の利用者に関してはノロウイルス対応として48時間隔離対応を開始した。しかし、年初めにノロウイルスによる集団感染が起こった。早期に桜町病院の感染対策制御チームの医師と看護師から助言を仰ぎ、集団発症期間を約1週間で抑えられ、尚且つ重症化を防ぐことが出来た点は評価すべきと考える。今回の経験を生かし、運営会議で振り返りを実施し、ホーム内の感染対策委員により新しくノロ対策マニュアルの更新を実施している。

3. サービスへの取り組み

(ア) 利用者が『大切にされていると思えるケア』の実践について

- 生活相談係では利用者とは日々の生活の中で、家族とは面会の機会に積極的にコミュニケーションをとり信頼関係を構築した。各係からの報告や事故報告書の確認、サービス・業務向上委員会、介護事故予防対策会議などの取り組みにより家族の特徴をふまえて大きな苦情に発展することなく速やかに介入し対応することが出来た。
- 介護係は、中途退職者が出て勤務状況が厳しい中でも感染症、誤嚥、脱水、尿路感染、褥瘡、骨折の予防に努めるべく医務係と連携して丁寧なケアの実践をした。残念ながら年末には転倒者が重なってしまったが、これに関しては転倒リスクのアセスメント表の取り組みに着手している。日々の口腔ケアの徹底もあり、誤嚥性肺炎での入院は1名で抑えられた。
- 看取り介護に関して今年度は、桜町病院から複数の医師が勤務医として契約し、それぞれ専門の立場で丁寧な面談を実施して頂いた。またどの職種の職員もご家族が利用者にとってどのようなことが一番良いのかを考えられるように、最後の時まで共に伴走するようにケアの実践が出来た。
- エンゼルケアに関しては、前年度の取り組みを継続し、エンゼルケアの実践デモンストレーションを実施して更に職員のケアが統一できるようにした。
- 医務係は、積極的に感染症予防対策に力を入れて、朝礼で『健康メッセージ』と称して、日々の気温、湿度の変化による利用者の掛物、換気、水分補給の調整の指示や利用者のみならず

職員に対しても感染症予防の手洗い、マスク着用、十分な休養の奨励を実施し、細かいく、感染症などによる入院者を出さないように努力した。そのため脱水や感染による入院者は今年度はゼロだった。

- 栄養部では、ホームご利用者はノロウイルスに罹患し集団発生したが、リスク管理により栄養部内の職員罹患は防げた。栄養講座や利用者とのおやつ作り、屋上で栽培した野菜を使つての食事づくりやご利用者の出身地の郷土料理を提供したりなど食を通しての支援が出来た。
- ショートステイに関しては、ギリギリまで在宅で介護している家族が増えたこともあってか、要介護度の高いご利用者様も増えてきている。必然的に介護量や医療的ニーズの高い方も増え、今後ますます桜町病院と連携を取つて、地域で最期まで暮らす方を支援することが必要と思われる。

(イ) 緊急ショートステイの受け入れについて

利用者数は男性2名。女性2名の計4名。延べ利用日数は37日であった。

前年度は、実績8名。延べ利用日数54日の実績状況である。利用内容は主な介護者の急病、急死・介護者からの虐待があげられる。在宅での老老介護の実態が汲み取れる。

また、異常気象による夏場の熱中症や孤独死においても、被害防止の為に、緊急ショートステイを利用したケースも見られる。

今後も増え続けるであろう高齢者の通常サービスでは対応できない受入サービスとしての緊急ショートステイは必要性が高いものと考えられる。

緊急ショートステイを受け入れる側としては情報のあまり無いところでの受け入れとなり、厳しい状況ではあるが、地域住民にとって必要な役割であると認識し、今まで通り迅速に対応していきたい。

〔I〕 入所ご利用者のADL状況について

※ADL状況について<2016年3月31日現在・単位(人)・75名調査>

種類 \ 区分	介助されていない	見守り	一部介助	全介助
食 事 (構成比 %)	9 (12.0)	44 (58.7)	12 (16.0)	10 (13.3)
衣服着脱・上着 (構成比 %)	9 (12.2)	5 (6.8)	43 (58.1)	17 (23.0)
衣服着脱・ズボン (構成比 %)	7 (9.3)	3 (4.0)	11 (14.7)	54 (72.0)
排泄・排尿 (構成比 %)	9 (12.0)	5 (6.7)	25 (33.3)	36 (48.0)
排泄・排便 (構成比 %)	9 (12.0)	4 (5.3)	25 (33.3)	37 (49.3)
洗 身 (構成比 %)	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (33.3)	50 (66.7)
起 床 (構成比 %)	0 (0.0)	4 (5.3)	39 (52.0)	32 (42.7)
寝 返 り (構成比 %)	5 (6.7)	0 (0.0)	46 (61.3)	24 (32.0)

立ち上がり (構成比 %)	4 (5.3)	0 (0.0)	39 (52.0)	32 (42.7)
歩行 (構成比 %)	8 (10.7)	0 (0.0)	16 (21.3)	51 (68.0)

〔Ⅱ〕入所ご利用者の要介護度の状況について（前年年度末：比）

	《2016.3.31 現在》	《2015.3.31 現在》	前年同日比増減
	男 性	男 性	
要介護1	0名	0名	0名
要介護2	2名	3名	-1名
要介護3	3名	3名	0名
要介護4	6名	5名	+1名
要介護5	5名	8名	-3名
合 計	16名	19名	-3名
	《2016.3.31 現在》	《2015.3.31 現在》	前年同日比増減
	女 性	女 性	
要介護1	3名	4名	-1名
要介護2	7名	7名	0名
要介護3	23名	19名	4名
要介護4	32名	35名	-3名
要介護5	18名	18名	0名
合 計	83名	83名	0名

【施設整備状況】

創立30年を迎えてライフライン関連の高額な設備機械の更新や修繕費対応が近年続いている。今期は、冷房チラー本体の更新を予算化し約389万かけて実施することが出来た。

これは、前年夏場にチラー本体周辺に漏電等が発生し、冷房と給水ポンプ系電源が急に停電して修理対応に追われた状況があり、都度の修理対応と原因調査を実施していたが、チラー本体の交換が必要となったものである。400万円近い高額機械であるので、法人本部の協力のもと春に指名競争入札を実施し、7月に無事チラー本体の更新が出来た。

その他には、1階ばら1号室（本来2人部屋であった）が、居室奥側の換気と室温設定が難しいことから1床扱いになっていたが、居室ベットの有効利用の視点で空調工事を実施した。

現在2名部屋とし有効利用し尚且つ収入増で財務改善に繋がっている。

また、器具・備品においても多数が更新時期を過ぎても利用しているものが多く、突然の故障で新規購入をするものが少なくない。

予算時に計画的に優先順位をつけて予算化しているが、予期せぬ修理・更新も多くなってきており、対応に追われる状況もある。

ソフトウェアについては、今期、介護係勤務表作成ソフト約82万円を新規購入した。

これは、介護人員不足により介護員勤務表作成が、係長・係長代理職の複数で毎月膨大な時間を要しているため、介護現場の負担軽減と係長・係長代理職の残業軽減の為、担当チームで検討し経営会議で導入を決定したものである。また、アマノタイムカードシステムと連動でき、タイム

カード処理・管理についても時間短縮を図る。

修繕費については、ボイラー温水・冷房チラー・配水管等の日常点検を強化し、漏水など故障箇所の早期発見を努めている。また、職員にも不具合箇所の早期報告に協力してもらっている。この影響か、今期の修繕費総額は 236 万円（2014 年度 593 万円・2013 年度 423 万円）で大きな修繕費支出を計上していない。修繕費においても支出削減の財務改善効果がみられた。

1. 主な固定資産取得（建物設備・器具及び備品）

●	7/31	冷房設備機械チラー本体（田口工務店）	3,888,000 円
●	4/30	食堂配膳室一層式シンク（マルゼン）	340,200 円
●	8/24	デスクトップ P C（ゼロックス）	126,144 円
●	8/31	ばら 1 号室空調機	345,600 円
●	12/14	電動ベット 3 モーター	216,540 円
●	12/28	ノートパソコン（勤務表作成用）	119,664 円
●	2/29	シュレッダー	162,810 円
●	3/31	ばら 2 号室エアコン	132,732 円

2. 主なソフトウェア取得

●	11/30	勤務表作成ソフト（NTT データ：シフト君）	815,400 円
---	-------	------------------------	-----------

3. 主な修繕費支出

●	6/30	消防設備機器交換（セコム）工事	140,400 円
●	10/9	生ごみ処理機：修理	123,400 円
●	2/29	入浴ロベリア：ストレッチャー基盤修理	159,418 円
●	3/31	非常用照明器具交換	320,263 円

2015年度 桜町聖ヨハネホーム 年度研修参加一覧表

NO	研修名	主催	場所	期間	参加者
1	新任研修	聖ヨハネ会 法人本部	戸塚ホールほか	4/1~4/3	山根・森崎・大川内・大橋
2	第4回黒田留美子先生ソフト食講習会	ホシザキ東京	鈴春錦町ビル	4/17	坂本
3	平成27年度 初任者研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	5/20・21、6/2・3、6/10・11	星・大川内・森崎
4	社会福祉法人制度について	東京都社会福祉協議会	ベルサール飯田橋ファーストイベントホール	5/22	芦澤
5	看取りのプロが実践する礼儀・作法、人としての力、自己理解	日総研	日総研研修室	5/23	佐藤
6	特養・デイの個別機能訓練加算算定について学ぶ「介護保険制度に関する研修会」	東京都社会福祉協議会	中央大学駿河台記念館	6/5	芦澤
7	ニチワ医療福祉 & CareFoodソリューションセミナー「人手不足の時代、これからの厨房システム」	ニチワ電気(株)	ニチワ電気 東京支社	6/19	西河
8	平成27年度 法人採用担当者向けセミナー「求職者に魅力的な法人説明会で選ばれるPR術」	東京都 福祉人材センター	ホテルメトロポリタンエドモンド	6/22	及川
9	平成27年度栄養管理講習会「給食施設における食品衛生管理」	東京都多摩府中保険所	多摩府中保険所	6/22	坂本
10	医療・福祉事業者向け労務管理対策&マイナンバー対策セミナー	アマノ	アマノ(株)西東京支店	6/23	志藤
11	介護報酬請求事務に関する研修会(基礎編)初心者向け	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	6/29	堀田
12	平成27年度中堅職員研修	東京都社会福祉協議会	日本社会事業大学文教キャンパス	6/30・7/1、7/8・9、7/14・15	伊藤・山根・磯野
13	2025年の雇用を考える～今後10年で特養経営者がとるべき針路とは	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	7/3	藤井
14	ボランティア・コーディネータ基礎研修	日本ボランティアコーディネーター協会	ルーテル市ヶ谷センター	7/16	堀田
15	平成27年法人合同研修「サービスマナーを踏まえた介護とは」	聖ヨハネ会 法人本部	戸塚ホール 2F会議室	7/17	及川紫・柴田・武田
16	東京都社会福祉協議会「福祉施設・事業所に求められるマイナンバー制度の理解と対応」	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	9/1	藤井
17	平成27年度健康づくり調理師研修会	東京都多摩府中保健所	多摩府中保険所 ルミエール府中	9/3・11、9/15、9/29	岩崎・井口
18	福祉施設のための苦情対応セミナー	損保ジャパン日本興亜(株)	損保ジャパン日本興亜新宿本社ビル	9/7	遠藤
19	平成27年度ショートステイ情報交換会	東京都社会福祉協議会	家の光会館7F コンベンションホール	9/14	堀田
20	第2回多摩クリニック摂食嚥下研修会	日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック	小金井 宮地楽器ホール	9/28	坂本
21	高齢者介護施設での看取り	東京都ナースプラザ	東京都ナースプラザ	10/2	青木
22	平成27年度福祉職員職務階層別「中級人材養成研修」	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	10/6・7、10/20・21	木村・吉田
23	介護報酬請求事務に関する研修会(応用編)	東京都社会福祉協議会	家の光会館7F コンベンションホール	10/28	谷村
24	機能訓練指導員のための情報交換会他施設の機能訓練指導員の業務を知ろう	東京都社会福祉協議会	家の光会館7F コンベンションホール	10/29	芦澤
25	平成27年度東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修	東京都福祉保健局高齢社会対策部	東京都庁第一庁舎5階	11/11	芦澤
26	平成27年度介護職員スキルアップ研修～医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ～	東京都福祉保健局	東京都社会福祉保健医療研修センターほか	11/12・13、12/3	荒井
27	職場の要 生活相談員の支援力を高めよう	東京都社会福祉協議会	新宿NSビル	11/24	堀田
28	平成27年度小金井市介護職員現任研修 噛み飲み込むが困難な人の食事	小金井市福祉保健部介護福祉課	日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック	12/18	吉井
29	第2回チームリーダー研修	東京都社会福祉協議会	日本社会事業大学文教キャンパス	1/19、1/20	森川
30	職場のモチベーションと定着率を底上げするチームビルディングとは	関西看護出版	林野会館	1/23	芦澤
31	社会福祉法人・施設会計決算実務研修会	東京都社会福祉協議会	中央大学駿河台記念館	1/20・21	廣瀬
32	更年期障害について	桜町病院教育委員会	病院1階会議室	2/1	吉田・長縄・亀井・加来・増田
33	スピリチュアルケアにつながる「聴く」力を養うコミュニケーションワークショップ	教育研修委員会	戸塚ホール	2/3	藤井・芦澤・山極・長縄・及川紫・高野・櫻井
34	食品衛生実務講習会A	東京都多摩府中保健所	府中グリーンプラザ	2/16	坂本
35	「ノロウイルスによる食中毒の予防と対策」	株式会社ダスキン	アットビジネスセンター渋谷東口前402号室	2/17	西河
36	平成27年度OJT推進研修～仕事の中で人を育てる意味を学び、効果的な実践に取り組もう～	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	2/23・24	芦澤・小野
37	小金井市介護事業者連絡会 看護職の会	小金井あんず苑	老人保健施設 秋桜	3/10	小林
38	いまだからこそ生活相談員の仕事について考える—施設地域を支えるために担うべき役割は何か—	東京都社会福祉協議会	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	3/11	堀田
39	平成27年度 福祉事業者における権利擁護・苦情対応研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	3/14	森川
40	職場のストレスチェック活用セミナー	中央労働災害防止協会	安全衛生総合会館	3/14	浦和
41	笹原留似子いのちを語る	ケアタウン小平 聖ヨハネホスピスケア研究所	小金井 宮地楽器ホール	3/24	藤井・小林・青木・朴

Ⅱ 桜町高齢者在宅サービスセンター

通所介護・訪問介護・訪問入浴介護・居宅介護支援・小金井市委託事業
 小金井きた地域包括支援センター（小金井市委託事業・介護予防支援）

【平成 27 年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間 延定員	延べ利用 者数	1日平均 利用者	利用率 (H27年)	利用率 (H26年)	利用率 (H25年)
介護保険事業	通所介護(一般)	30	9,180	8,950	29.2	97.5%	92.6%	88.2%
	通所介護(認知)	24	7,344	4,982	16.3	67.8%	70.8%	63.8%
	訪問介護	110/週	5,657	5,984	19.4	105.8%	92.0%	
	訪問入浴	5.3	1,641	1,749	5.66	106.6%	97.3%	
	居宅介護支援	155/月	1,860	1,918	159.8/月	103.1%	97.2%	
栄養事業	給食	37	11,322	11,997	39.2	106.0%	95.3%	
	配食サービス	70	20,720	20,774	70.7	100.2%	92.7%	83.9%
小金井市 委託事業	特定コース	15/日	681	385	7.9	57.9%	77.1%	78.0%
	一般コース	15/日	675	515	11.0	76.0%	82.7%	76.0%
	やすらぎ支援	年間延派遣回数 141回		実利用者数 4名		支援員登録数 6名		

● 利用者の動向

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

① 一般型通所介護

平成26年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	1,046	589	2,872	1,557	1,153	999	143	8,359
割合	12.5%	7.0%	34.4%	18.6%	13.8%	12.0%	1.7%	100.0%
平成27年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	1,057	725	3,651	1,452	964	1,052	49	8,950
割合	11.8%	8.1%	40.8%	16.2%	10.8%	11.8%	0.5%	100.0%

② 認知症対応型通所介護

平成26年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	780	2121	1228	462	531	5,122
割合	0.0%	0.0%	16.3%	36.2%	23.1%	7.9%	16.5%	100.0%
平成27年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	3	0	888	1597	1221	841	432	4,982
割合	0.1%	0.0%	17.8%	32.0%	24.5%	16.9%	8.7%	100.0%

【職員】

	平成 27 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 28 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正職員	非常勤職員	合計
センター長	1名		1名	1				1		1名		1名
事務長	0名		0名					0	0			0名
介護員	2名	11名	13名				1	0	1	2名	10名	12名
生活相談員	9名	1名	10名	1	1	2		3	1	8名	2名	10名
看護師	1名	6名	7名					0	0	1名	6名	7名
介護支援専門員	4名	1名	5名			1	1	1	1	4名	1名	5名
訪問介護員	1名	12名	13名				1	0	0	1名	11名	12名
運転員		3名	3名			1	1	1	1		4名	4名
栄養士	2名	1名	3名					0	0	2名	1名	3名
調理・調理補助		4名	4名			2	1	2	1		5名	5名
理学・作業療法士		2名	2名					0	0		1名	1名
事務員		3名	3名					0	0		3名	3名
高齢住宅管理人		10名	10名			2	1	2	1		11名	11名
清掃員他(洗浄員)		3名	3名					0	0		3名	3名
合計	20名	57名	77名	2	1	8	6	10	6	19名	58名	77名

【施設運営状況】

(1) 財務改善の取り組み

財務改善 3 ヶ年計画の 1 年目として、平成 27 年度も財務改善を大きな目標に事業運営に取り組んだ。4 月の介護保険制度改定に伴う介護報酬の平均 2.27%引き下げにより苦戦が予想されたが、各事業が財務改善の為の具体的な数値目標を設定し、在宅サービス部運営会議で、現況報告や問題点・実績改善に対する具体的な内容を話し合い、各職員が運営会議での方針に基づいた対応を実践し、数値目標を常に意識しながら目標達成を目指した。具体的な対応としては、通所介護事業における年間 11 日間祝日営業や困難ケースや重度介護者の受け入れ、事業所への積極的営業活動や信頼関係の構築、居宅介護支援事業所における法人内紹介率の向上等があげられる。また人件費に関しては職員配置の見直しや夏休の 1 日削減（3 日→2 日）を行い、事務費・事業費に関しても無駄を省く努力を重ね支出削減にも取り組んだ。

その結果として桜町高齢者在宅サービスセンター全体で平成 27 年度当期資金収支差額は 1,416 万円の黒字、当期活動増減差額は 2,309 万円の黒字という結果を残し、大幅な財務改善を達成することが出来た。また老朽化する設備や求人難に対しての 500 万円積立、サービス区分間の長期借入金に対して 850 万円の返済が出来たことも財務改善 3 ヶ年計画 1 年目の大きな成果である。

(2) 組織強化の取り組み

高齢福祉部門は、長らく続いた園長・センター長の下に主任制というワントップ型の組織を改め、4 月から事業・経営の課題や展開を確実に把握・連携し、改善をしていけるように統括施設長をトップにヒエラルキーの部課長制の組織に改編した。それに伴いヨハネホーム園長と兼務であったセンター長を専任で配置した。平成 27 年度は、新しい組織の在り方や考え方を各職員に浸透させていくことで精一杯であったが、高齢福祉部門一体での事業運営や報告・連絡・相談の必

要性について少しずつ理解が深まり機能し始めている。

【利用者支援状況】

(1) リスクマネジメント

1) 介護事故

通所介護係で4月に頭部打撲事故、11月と3月に転倒事故があった。いずれも職員の過失による事故ではなく利用者自ら転倒した事故であるが、いずれのケースも受診介助を行い家族や関係機関に報告・連絡を行っている。3月の転倒事故の利用者は左手首骨折の診断が出たため、その後3回の受診介助をセンターで行っている。事故により苦情に繋がるケースはなかった。

車輻事故に関しては、自車輻を傷付けてしまうものが何件かあったが、他車輻と接触事故や人身事故は起きていない。

2) ヒアリハット

通所介護係では、平成27年度も年間を通してヒアリハット事例を報告し、ミーティング内で事例の共有・改善策を話し合ってきた。平成27年度に事例として挙げられたヒアリハットの分類と件数は下記の通りである。

送迎(42件)、入浴(9件)、転倒・移動(31件)、服薬(8件)、食事(7件)、
物品返却忘れ(5件)他(27件)

事例の共有・改善対応の結果大きな事故や苦情を未然に防いでいると考えられ、職員の責任感や緊張感のある対応にもつながっている。

3) 苦情

平成27年度はサービス業務向上委員会の中で上記内容の苦情や要望・賞賛事例を取り上げ、他事業、他職種からの意見をいただき、その後のサービス提供に生かして来た。様々な角度から意見や評価をもらい、各事業が行った対応を振り返り、問題点を考え、改善につなげるという意味から有意義な会議になっている。

通所介護事業で職員の対応に対する苦情が3件発生している。いずれも利用者や家族のことを思っただけの対応であったが、説明不足や連絡不足から苦情につながるケースが多い。苦情があった場合の報告・連絡・相談、早期対応、利用者・家族への説明等チームとしての対応が求められている。

(2) 感染症対策

平成27年度も高齢福祉部門合同での感染症研修を6月に食中毒に関すること、9月にインフルエンザ・ノロウイルスに関する感染症研修を行った。

また各事業においても、ミーティング内等で感染症発生時の対応に関する内部研修を行い、特に10月～3月においては手洗いの徹底、マスクの着用、加湿器の設置、換気、体調の管理等を行い感染症を未然に防ぐ努力を行った。

平成28年3月下旬から4月上旬にかけて、通所介護において職員4名、利用者7名へのインフルエンザB型感染が発生する。保健所・市役所にも報告を行い実地確認・指導が行われた。原因としては、①初めに発症した利用者の風邪症状に対してインフルエンザ対応が出来なかった ②検査で陰性結果であった職員が、そのまま勤務していたが翌日再検査で陽性が判明したことが挙げられる。今回の反省を生かし今後の感染症予防・対策につなげていく。

(3) サービスへの取り組み

施設重点取組事項

1) 通所介護・受託事業係

① 予防・一般型通所介護

平成 27 年度は年間平均利用率 97.5%と目標である 93%を大きく上回ることが出来た。利用状況を細かく分析し、積極的な新規利用者の受け入れや利用回数増を行った点、担当者を決めイベントボランティアの拡大を図ることにより臨時利用の促進を実施したことが大きな要因である。個別機能訓練の実施方法の見直しを行い、利用者個人の身体状況やニーズに合ったプログラムを実施した。

相談員業務については、介護支援専門員と良好な協力関係を築き、利用につなげることが難しいケースにおいても様々な提案をして利用につなげる努力を行なった。その結果は、多くの新規利用者受け入れ・利用回数増の結果にも表れている。どうしても現場業務の比重が多くなり、相談業務やデスクワーク時間の確保が難しくなっている為、早急に改善していく必要がある。

② 認知症対応型通所介護

平成 27 年度の年間平均利用率は 67.8%で目標である 75%を大きく下回る結果となった。利用者の入院やショートステイ利用という理由はあるが、利用率改善の為に積極的に動けない・動き出しが遅いという点が問題であると考え。利用状況を理解・把握し、各職員が今出来ることは何かを常に考え行動することが必要である。

活動内容に関しては、利用者を身体状況や認知症状によってグループ分けを行い、魅力あるプログラム内容の実施を考えていたが、職員体制等を理由に実施出来なかった。

平成 27 年度の反省を生かし、業務改善と利用率向上の為に意識作りや具体的な実施を各職員が連携を取ながら行う事が急務である。

③ 地域支援事業

<さくら健康クラブ>

今年度も機能訓練を中心に実施した。体力測定においては測定結果を詳しく説明し、日常生活に生かしていける様にアドバイスを行なった。また利用終了後の継続支援にも心掛け、定期的に連絡を取り家族介護者教室やイベントへのお誘いや介護保険のしくみ・サービスの説明等を行った。

<やすらぎ支援事業>

やすらぎ支援員 6 名、利用者 4 名の登録で年間訪問回数 114 回の実績であった。

やすらぎ支援員を増員し訪問回数を増やすことが課題であった為、認知症サポーター養成講座やボランティアセンターホームページを利用して支援員募集を試みたが、思う様な成果は得られなかった。

今後も事業の継続・活発化のために上記に加え、事業説明会の開催にも取り組んでいきたい。

<家族介護者教室>

3 月に「ホームヘルパーから聞く介護よもやま話」という内容で 10 名の方が参加し行なった。ホームヘルパーからの話と福祉用具業者の協力で介護用品器具をスライドショーで紹介し、在宅介護の様子や福祉用具について知る機会になったと好評であった。

④ グリーンタウン高齢者住宅管理

- ・ 1 日 3 回の巡回により入居者の安否確認・健康状態・訪問販売の把握・生活相談など親切丁寧な対応を行なうことが出来た。
- ・ 緊急連絡があった場合は、早急に訪問し適切な対応が出来た。困難なケースの場合には、担当職員に連絡を取り指示出し・応援を行なった。
- ・ 年間 10 回の救急車要請を行なった。
- ・ グリーンタウン自治会との防災連携は、市・自治会・桜町センター間での話し合いが進ま

ず今後の課題となっている。

- ・入居者同士の交流の場として、1 ヶ月に 1 回の喫茶、クリスマス会等を実施し好評であった。

2) 訪問サービス係

① 訪問介護

臨時派遣と祝日派遣の対応を積極的に行ない、年間収入目標・派遣数目標を大きく上回る実績を残すことが出来た。介護支援専門員との信頼関係を築く為、ターミナルケースや虐待・支援困難ケースも多く受入れて来たことが目標を達成出来た理由である。

職員の知識・技術向上に関しては、研修参加や勉強会の実施が予定通り出来ず思うように効果を得ることは出来なかったが、各ヘルパーがサービス担当者会議に出席する機会を多く設けたことにより業務に対する意識向上につなげることが出来た。

情報交換・情報共有を的確に行ない、安定したサービス提供を実践しており、高いレベルのサービス提供が出来ていると自負している。

② 訪問入浴介護

年間目標件数・収入予算目標を達成することが出来た。要因としては、営業予定日以外や予定時間外の営業、終末期を迎えた方への積極的サービス提供、短期利用の方へのサービス提供等があげられる。体調の関係で冬場落ち込む利用状況を考えて、気候の良い時期に可能な限り利用者を受け入れサービス提供を行ったことも目標達成の要因である。

職員間での情報共有に努め、利用者一人一人に適した入浴の提供を行い、積極的に利用者・家族とコミュニケーションを図ることにより良好な信頼関係が構築できている。また介護支援専門員に対しても、信頼関係を築くために、困難ケースや時間調整に対する要望を出来る限り聞き入れることに努め新規利用者獲得につながっている。

3) 在宅栄養係

自由配食 1 日 70 食を目標に取り組み、事業所への売り込みやパンフレットを作成し病院に置いてもらう・相談支援課の協力等により、年間利用率 100.2%、1 日平均 70.2 食を達成することが出来た。

食事の総合的な見直しを行なうという目標を立て、栄養士間において定期的な話し合いの機会を設け業務の見直しを行なう予定であったが、通常業務で手一杯の状況が響き見直しに至らなかった。ただし適温提供を心がけた効果もあり、職員検食の結果や利用者との会話の中から利用者に喜ばれる食事作りという点では達成出来たと考えている。

4) 居宅介護支援係

財務改善のため、ケアプラン月 155 件の目標を立て事業に取り組んだ結果、年間 1890 件、月平均 157.5 件の実績を残すことが出来た。特定加算Ⅱの取得を維持することにより質の高いケアマネジメントの提供が出来たと考えている。

利用者の視点に立ったサービス提供という目標に対しては、各介護支援専門員の自己点検票の作成と個人面談の実施し報告・連絡・相談を徹底して行ったが、利用者満足度調査に関しては、職員の人事のこともあり実施を見送った。

組織の中の一員としての行動という目標に関しては、まだまだ不十分であるが取り組みに対する意識は上がってきている。

利用者の家族から苦情の手紙を受け取る事例があった。介護支援専門員のプランニング・説明の方法に対して疑問を投げかけられた。その後の対応の中で「改善してもらえれば問題はない」と言っていたが、職員の説明やプランニングの際の方法に関して良い勉強になった。

5) 居宅相談支援係 (小金井きた地域包括支援センター)

財務改善に対する取り組みとして、要支援者の介護予防プランの直接担当件数をふやすことに努め平成 27 年 4 月分比べ平成 28 年 3 月にはおよそ 2 倍の件数を担当し、介護報酬も 2 倍の実績を得ることが出来た。高齢福祉部門事業の紹介を積極的にすすめることで他事業の実績向上にも貢献し、訪問・電話・モニタリング等により利用者の身体状況やニーズに合ったケアプラン作成を行なった。

近年増加している高齢者虐待ケースや多問題ケースに関しては、関係機関と速やかに連絡・調整・チームとして機能する対応を取ることが出来た。

生活支援コーディネーター事業・医療と介護の連携事業・認知症初期集中支援チーム等新たな事業や取り組みが開始され、それぞれの担当者が小金井市や関係機関と連携し成果を上げた。平成 27 年度事業実績件数は下記の通りである。

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| ①総合相談・支援業務 2,320 件 | ②虐待・権利擁護 10 件 |
| ③包括的・継続的ケアマネジメント 425 件 | ④申請代行等 347 件 |
| ⑤二次予防事業対象者予防プラン 61 件 | ⑥二次予防事業対象者把握事業 116 件 |
| ⑦要支援者予防プラン作成 3334 件 | ⑧地域介護予防活動支援事業 4 グループ |
| ⑨認知症サポーター養成講座開催 11 回 (231 名受講) | |

2015年度 在宅サービス部 利用実績集計表 (桜町高齢者在宅サービスセンター)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計・平均
通所介護	一般型 営業日数	26	23	26	27	26	26	26	25	25	24	25	27	306
	1日 定員30名	780	690	780	810	780	780	780	750	750	720	750	810	9,180
	実利用者人数	119	113	112	112	114	118	116	110	112	110	110	107	113
	延利用者数	767	640	757	780	739	767	777	708	762	711	756	786	8,950
	登録者数	121	117	119	119	122	123	124	124	116	117	116	118	120
	新規者数	3	2	2	3	4	3	3	2	0	1	1	3	27
	終結者数	3	1	0	3	1	2	2	2	8	0	2	1	25
	月利用率	98.3%	92.8%	97.1%	96.3%	94.7%	98.3%	99.6%	94.4%	101.6%	98.8%	100.8%	97.0%	97.5%
	認知症対応型 日数	26	23	26	27	26	26	26	25	25	24	25	27	306
	1日 定員24名	624	552	624	648	624	624	624	600	600	576	600	648	7,344
	実利用者人数	46	45	44	45	45	44	43	45	42	41	41	44	44
	延利用者数	427	378	431	464	449	428	439	412	421	354	351	428	4,982
	登録者数	48	47	48	48	48	49	48	50	47	49	46	48	48
	新規者数	0	0	1	1	0	2	0	3	0	3	1	3	14
	終結者数	1	2	0	1	0	1	1	1	3	1	4	1	16
	月利用率	68.4%	68.5%	69.1%	71.6%	72.0%	68.6%	70.4%	68.7%	70.2%	61.5%	58.5%	66.0%	67.8%
訪問入浴	訪問入浴 営業日数	26	26	26	27	26	26	26	25	25	24	25	27	309
	目標件数 5.3件/日	138	138	138	143	138	138	138	133	133	128	133	143	1641
	延入浴件数	145	159	149	163	156	141	159	133	142	114	125	140	1726
	延清拭件数	2	0	2	5	4	3	1	0	2	2	1	1	23
	登録者数	31	32	32	33	32	33	31	32	30	30	31	31	31.5
	新規者数	3	3	2	3	1	1	1	2	0	2	2	1	21
	終結者数	3	1	2	2	2	0	3	3	1	1	1	2	21
	月利用率	106.5%	115.2%	109.4%	117.5%	115.9%	104.3%	115.9%	100.0%	108.3%	90.6%	94.7%	98.6%	106.6%
	訪問介護 営業日数	26	25	26	27	26	26	27	25	25	24	25	27	309
	目標件数 110件/週	476	458	476	494	476	476	494	458	458	439	458	494	5657
延派遣件数	519	433	516	532	516	518	492	478	506	471	491	512	5984	
登録者数	75	74	70	69	68	71	69	69	70	68	68	68	70.1	
新規者数	0	2	3	2	1	4	0	2	2	3	2	1	22	
終結者数	0	5	2	2	2	1	2	2	1	2	3	1	23	
月利用率	109.0%	94.5%	108.4%	107.7%	108.4%	108.8%	99.6%	104.4%	110.5%	107.3%	107.2%	103.6%	105.8%	
居宅支援	介護プラン件数 実績	159	150	152	159	164	163	154	156	154	162	158	158	1889
	155/月 新規	3	2	5	10	6	4	2	8	3	11	3	7	64
	終結	7	10	2	3	2	4	6	6	4	6	5	6	61
	予防プラン件数 実績	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	58
	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	終結	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	作成件数合計	161.5	152.5	154.5	161.5	166.5	165.5	156.5	158.5	156.5	164.5	160	160	1918
	法人紹介率 一般通所 合計	53.8%	52.6%	51.2%	53.0%	56.2%	55.1%	53.5%	51.2%	53.0%	52.3%	53.6%	48.8%	52.9%
	桜町	37.5%	35.9%	35.4%	38.6%	41.6%	40.5%	39.5%	39.5%	38.8%	37.5%	38.1%	34.5%	38.1%
	本町	17.5%	18.0%	17.1%	15.7%	15.7%	15.7%	15.1%	12.8%	15.3%	15.9%	16.7%	15.5%	15.9%
	認知通所 合計	85.7%	84.6%	84.0%	83.3%	76.0%	76.9%	76.0%	77.3%	77.3%	81.8%	81.8%	87.0%	81.0%
	桜町	67.9%	69.2%	68.0%	66.7%	64.0%	61.5%	60.0%	59.1%	59.1%	63.6%	63.6%	21.7%	60.4%
	本町	21.4%	19.2%	20.0%	20.8%	16.0%	19.2%	20.0%	22.7%	22.7%	22.7%	22.7%	69.6%	24.8%
	訪問介護	22.5%	25.0%	24.4%	24.1%	25.6%	25.9%	26.7%	27.4%	27.0%	28.4%	27.5%	29.6%	26.2%
訪問入浴	70.0%	77.9%	77.8%	77.8%	66.7%	66.7%	62.5%	62.5%	57.2%	57.2%	60.0%	60.0%	66.3%	
訪問看護	52.2%	54.6%	47.6%	44.8%	48.3%	43.3%	46.4%	46.4%	42.3%	44.0%	41.7%	40.0%	46.0%	
短期入所	28.6%	31.8%	19.1%	18.5%	30.0%	24.1%	47.8%	17.4%	21.7%	20.8%	19.1%	25.0%	25.3%	
認定調査件数 他市含 5/月	6	4	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	61	
介護予防プラン件数計 240件/月	270	270	284	286	282	285	286	291	293	286	297	292	3422	
直営件数 135件/月	111	116	131	150	158	157	171	179	183	183	193	194	1926	
直営新規件数	8	8	10	11	4	10	7	9	6	4	10	10	97	
直営月利用率	82.2%	85.9%	97.0%	111.1%	117.0%	123.7%	126.6%	132.6%	135.5%	135.5%	142.9%	143.7%	119.5%	
委託件数 105件/月	159	154	153	136	124	117	115	112	110	103	104	97	1484	
委託新規件数	0	3	0	3	0	1	0	0	1	1	0	1	10	
委託月利用率	151.4%	146.6%	145.7%	129.5%	118.1%	111.4%	109.5%	106.7%	104.8%	98.1%	99.0%	92.4%	117.8%	
栄養事業	自由配食 営業日数	25	23	26	26	26	24	26	23	24	23	24	26	296
	目標食数 70食/日 (最低 62/日)	1,750	1,610	1,820	1,820	1,820	1,680	1,820	1,610	1,680	1,610	1,680	1,820	20,720
	実人数	114	116	121	111	127	120	121	116	121	119	119	116	118.4
	延食数	1,712	1,585	1,832	1,869	1,858	1,654	1,837	1,601	1,708	1,596	1,736	1,786	20,774
	登録者数	115	117	125	125	131	130	128	130	129	132	127	124	126.1
	新規者数	7	4	8	4	7	2	6	2	4	3	6	4	57
	終結者数	2	2	0	4	1	3	8	0	5	3	11	7	46
	自由配食月利用率	97.8%	98.4%	100.7%	102.7%	102.1%	98.5%	100.9%	99.4%	101.7%	99.1%	103.3%	98.1%	100.2%
	給食数 (通所昼)	1,025	868	1,017	1,039	1,050	1,042	1,041	978	1,009	924	960	1,044	11,997
	特定コース さくら健康クラブ 一般コース	日数	5	4	4	5	3	4	4	4	4	4	3	5
定員 15人/日		75	60	60	60	45	60	60	60	60	36	30	75	681
利用実人数		12	11	14	10	10	10	8	10	10	9	10	10	10.3
延利用者数		50	32	47	36	27	27	31	26	24	30	20	35	385
月率		66.7%	53.3%	78.3%	60.0%	60.0%	45.0%	51.7%	43.3%	40.0%	83.3%	66.7%	46.7%	57.9%
日数		4	3	4	5	4	4	4	4	3	4	4	4	47
定員 15人/日		60	45	60	60	45	60	60	60	45	60	60	60	675
利用実人数		14	14	15	12	12	12	14	13	12	15	15	15	13.6
延利用者数		50	38	47	43	28	38	52	37	31	52	44	55	515
月率		83.3%	84.4%	78.3%	71.7%	62.2%	63.3%	86.7%	61.7%	68.9%	86.7%	73.3%	91.7%	76.0%
やさらぎ支援	利用者実人数	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.8
	延派遣回数	8	10	13	10	10	10	10	14	16	16	11	13	141
	支援員登録数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6.0
	ボランティア延回数(生活)	80	72	84	85	73	77	75	75	57	79	81	95	933
ボランティア延回数(教養)	23	20	20	16	36	15	22	20	19	28	23	32	266	

平成27年度 部門別達成率

桜町高齢者在宅サービスセンター

上段:人(件)
下段:千円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
一般デイ	人数予算	28人	728	644	728	756	728	728	728	700	700	672	700	756	8,568
	実績		767	640	757	780	739	767	777	708	762	711	756	786	8,950
	差額		39	-4	29	24	11	39	49	8	62	39	56	30	382
	達成率		1.05	0.99	1.04	1.03	1.02	1.05	1.07	1.01	1.09	1.06	1.08	1.04	1.04
	収入予算	9400	6,843	6,054	6,843	7,106	6,843	6,843	6,843	6,580	6,580	6,317	6,580	7,106	80,538
実績		6,726	5,697	6,462	6,421	6,571	6,718	6,544	6,200	6,540	6,284	6,474	6,727	77,364	
差額		-117	-357	-381	-685	-272	-125	-299	-380	-40	-33	-106	-379	-3,174	
達成率		0.98	0.94	0.94	0.90	0.96	0.98	0.96	0.94	0.99	0.99	0.98	0.95	0.96	
認知デイ	人数予算	18人	468	414	468	486	468	468	468	450	450	432	450	486	5,508
	実績		428	378	431	464	449	427	439	412	421	354	351	428	4,982
	差額		-40	-36	-37	-22	-19	-41	-29	-38	-29	-78	-99	-58	-526
	達成率		0.91	0.91	0.92	0.95	0.96	0.91	0.94	0.92	0.94	0.82	0.78	0.88	0.90
	収入予算	12000	5,616	4,968	5,616	5,832	5,616	5,616	5,616	5,400	5,400	5,184	5,400	5,832	66,096
実績		5,345	4,762	5,438	5,836	5,655	5,360	5,535	5,184	5,218	4,388	4,620	5,115	62,456	
差額		-271	-206	-178	4	39	-256	-81	-216	-182	-796	-780	-717	-3,640	
達成率		0.95	0.96	0.97	1.00	1.01	0.95	0.99	0.96	0.97	0.85	0.86	0.88	0.94	
訪問入浴	人数予算	53人	138	122	138	143	138	138	138	133	133	127	133	143	1,624
	実績		147	159	151	168	156	144	159	133	144	116	126	141	1,744
	差額		9	37	13	25	18	6	21	0	11	-11	-7	-2	120
	達成率		1.07	1.30	1.09	1.17	1.13	1.04	1.15	1.00	1.08	0.91	0.95	0.99	1.07
	収入予算	14099	1,946	1,720	1,946	2,016	1,946	1,946	1,946	1,875	1,875	1,791	1,875	2,016	22,898
実績		2,036	2,256	2,106	2,376	2,183	2,018	2,114	1,960	2,064	1,627	1,716	1,985	24,441	
差額		90	536	160	360	237	72	168	85	189	-164	-159	-31	1,543	
達成率		1.05	1.31	1.08	1.18	1.12	1.04	1.09	1.05	1.10	0.91	0.92	0.98	1.07	
訪問介護	件数予算	週110件	476	476	476	494	476	476	494	458	458	440	440	476	5,640
	実績		519	433	516	532	516	518	492	478	506	471	491	512	5,984
	差額		43	-43	40	38	40	42	-2	20	48	31	51	36	344
	達成率		1.09	0.91	1.08	1.08	1.08	1.09	1.00	1.04	1.10	1.07	1.12	1.08	1.06
	収入予算		1,537	1,537	1,537	1,596	1,537	1,537	1,537	1,596	1,479	1,479	1,421	1,421	1,537
実績		1,955	1,832	1,990	2,065	2,021	2,050	1,964	1,951	2,022	1,944	2,044	2,101	23,939	
差額		418	295	453	469	484	513	368	472	543	523	623	564	5,725	
達成率		1.27	1.19	1.29	1.29	1.31	1.33	1.23	1.32	1.37	1.37	1.44	1.37	1.31	
ケアマネ	件数予算	150件	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	1,800
	実績		157	152	153	158	167	162	155	155	155	159	159	160	1,892
	差額		7	2	3	8	17	12	5	5	5	9	9	10	92
	達成率		1.05	1.01	1.02	1.05	1.11	1.08	1.03	1.03	1.03	1.06	1.06	1.07	1.05
	収入予算	16800	2,520	2,520	2,520	2,520	2,520	2,520	2,520	2,520	2,520	2,520	2,520	2,520	30,240
実績		2,724	2,626	2,654	2,756	2,905	2,800	2,697	2,685	2,677	2,750	2,747	2,753	32,774	
差額		204	106	134	236	385	280	177	165	157	230	227	233	2,534	
達成率		1.08	1.04	1.05	1.09	1.15	1.11	1.07	1.07	1.06	1.09	1.09	1.09	1.08	
ケアマネ(予防)	件数予算	5件	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	実績		5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	5	58
	差額		0	0	0	0	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	
	達成率		1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.80	0.80	0.97	
	収入予算	4276	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
実績		21	21	21	21	21	21	21	21	21	17	17	17	244	
差額		0	0	0	0	0	0	0	0	0	-4	-4	-8		
達成率		1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.81	0.81	0.97		
ケアマネ(認定調査)	件数予算	5件	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	実績		5	5	4	6	6	5	5	5	5	5	5	5	61
	差額		0	0	-1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	達成率		1.00	1.00	0.80	1.20	1.20	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.02
	収入予算	4320	22	21	22	21	22	21	22	21	22	21	22	21	258
実績		22	21	17	26	26	21	22	21	22	21	22	21	262	
差額		0	0	-5	5	4	0	0	0	0	0	0	0	4	
達成率		1.00	1.00	0.77	1.24	1.18	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.02	
きた包括	件数予算		260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	3,120
	実績		270	269	283	289	282	289	288	293	294	291	299	292	3,439
	差額		10	9	23	29	22	29	28	33	34	31	39	32	319
	達成率		1.04	1.03	1.09	1.11	1.08	1.11	1.11	1.13	1.13	1.12	1.15	1.12	1.10
	収入予算		658	658	658	658	658	658	658	658	658	658	658	658	7,896
実績		634	655	728	833	835	906	908	955	959	962	1,021	1,010	10,406	
差額		-24	-3	70	175	177	248	250	297	301	304	363	352	2,510	
達成率		0.96	1.00	1.11	1.27	1.27	1.38	1.38	1.45	1.46	1.46	1.55	1.53	1.32	
栄事(デイ食費)	食数予算	37食	962	851	962	999	962	962	962	925	925	888	925	999	11,322
	実績		1,025	868	1,017	1,039	1,050	1,042	1,041	978	1,009	924	960	1,044	11,997
	差額		63	17	55	40	88	80	79	53	84	36	35	45	675
	達成率		1.07	1.02	1.06	1.04	1.09	1.08	1.08	1.06	1.09	1.04	1.04	1.05	1.06
	収入予算	750	722	638	722	749	722	722	722	694	694	666	694	749	8,494
実績		769	651	763	779	787	782	781	734	757	693	720	783	8,999	
差額		47	13	41	30	65	60	59	40	63	27	26	34	505	
達成率		1.07	1.02	1.06	1.04	1.09	1.08	1.08	1.06	1.09	1.04	1.04	1.05	1.06	
栄事(自由配食)	食数予算	62食	1,550	1,426	1,612	1,612	1,612	1,426	1,612	1,426	1,550	1,426	1,488	1,612	18,352
	実績		1,713	1,585	1,832	1,869	1,858	1,654	1,837	1,601	1,708	1,596	1,736	1,786	20,775
	差額		163	159	220	257	246	228	225	175	158	170	248	174	2,423
	達成率		1.11	1.11	1.14	1.16	1.15	1.16	1.14	1.12	1.10	1.12	1.17	1.11	1.13
	収入予算	890	1,380	1,269	1,435	1,435	1,435	1,269	1,435	1,269	1,380	1,269	1,324	1,435	16,335
実績		1,523	1,409	1,629	1,662	1,652	1,471	1,633	1,424	1,641	1,419	1,544	1,588	18,595	
差額		143	140	194	227	217	202	198	155	261	150	220	153	2,260	
達成率		1.10	1.11	1.14	1.16	1.15	1.16	1.14	1.12	1.19	1.12	1.17	1.11	1.14	
合計	収入予算		21,265	19,406	21,320	21,954	21,320	21,153	21,379	20,517	20,629	19,868	20,515	21,895	251,221
	実績		21,755	19,930	21,808	22,775	22,656	22,147	22,219	21,135	21,921	20,109	20,925	22,100	259,480
	差額		490	524	488	821	1,336	994	840	618	1,292	241	410	205	8,259
	達成率		1.02	1.03	1.02	1.04	1.06	1.05	1.04	1.03	1.06	1.01			

【施設整備状況】

(1) 概況説明

設置後、25年が経過しており、様々な箇所では修繕・メンテナンスの必要が出ているため、施設全体の現状を把握し、必要箇所の優先度を決め計画的に整備を進めている。

(2) 主な固定資産

- | | | |
|-----------|------------------|----------|
| ● 2015年4月 | 居宅相談係 デスクトップパソコン | 131,544円 |
| ● 2015年5月 | 食器消毒保管庫（中古） | 251,640円 |
| ● 2016年1月 | 自動火災報知設備 | 820,800円 |

(3) 主な保守料

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| ● 2015年5月 | 介護保険改定対応費 | 120,960円 |
|-----------|-----------|----------|

(4) 主な修繕費

- | | | |
|------------|-----------------|----------|
| ● 2015年7月 | エアコン取り付け費用（2台分） | 208,000円 |
| ● 2015年9月 | 温水ヒータバーナー交換 | 810,000円 |
| ● 2015年10月 | コンビオープン修理 | 79,920円 |
| ● 2016年3月 | 地下誘導灯交換 | 96,282円 |
| ● 2016年3月 | 樹木剪定作業一式 | 100,000円 |

(5) 助成金による車両購入

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| ● 2015年6月 | 軽自動ワゴンR購入 | 1,017,940円 |
|-----------|-----------|------------|
- ※霞会館からの助成金により購入

【その他】

(1) 東京都実地指導検査

10月16日に行われ、銀行キャッシュカードの取り扱いに関して指摘があり、改善方法を検討・実施し東京都へ報告を行なう。

(2) 労働災害発生状況

- 9月2日通勤時における自転車と衝突し、右臀部打撲・右上腕擦過傷。
- 10月21日訪問時利用者宅で体調が悪くなり転倒し、右足首捻挫。

2015年度 桜町センター研修実施一覧表（期間 2015/4/1～2016/3/31）

（ 通所介護係・センター全体 ）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2015/6/22	総合	カトリック老人施設研修	静岡	鈴木治実
2015/6/25,29	感染症	感染症園内研修(食中毒)	桜センター	高齢福祉部門職員
2015/7/8	介護保険	介護保険サービス2割負担に伴う説明会	小金井市役所	鈴木治実
2015/7/17	接遇	法人内合同研修「サービスマナーをふまえた介護とは」	戸塚ホール	石井基之・鈴木裕美
2015/8/7	その他	法人内職場紹介研修（障がい部門）	戸塚ホール	大神田豪
2015/9/2,10,15	感染症	感染症園内研修(インフルエンザ・ノロウイルス)	桜センター	高齢福祉部門職員
2015/9/14	その他	法人内合同研修「伝わるコミュニケーション」	戸塚ホール	金丸直子・長津宏史 田丸伸彦
2015/9/29	介護	「介護サービスにおける医療と介護の連携」研修	文京区	田丸伸彦
2015/10/25	防災	小金井市合同防災訓練	小金井三小	鈴木治実・森田千積 松嶋聡子
2015/11/19	権利擁護	通所系管理者「高齢者権利擁護」研修	新宿	三浦さとみ
2015/12/2	その他	法人内職場紹介研修（高齢部門）	戸塚ホール	桜センター職員5名
2016/1/14	認知症	法人合同研修「自施設の認知症支援」	戸塚ホール	介護員他8名
2016/1/25	認知症	小金井市「認知症他職種協働」研修	東小金井 (口腔リハビリクリニック)	新田誌帆
2016/2/4	その他	武蔵野大学「スーパービジョン」研修	戸塚ホール	星野廣平
2016/3/15	その他	職場のストレスチェック活用セミナー	港区	浦和美恵

（ 訪問サービス係 ）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2015/11/14	認知症	スピリチュアルケア		森田和代・坂田伸子
2015/11/28	認知症	排尿障がいのヘルスケア向上	武蔵野公会堂	丸田春香・織茂成美
2016/1/23	接遇	みんなで学ぼう統合失調症	JA小金井	永井勝代・織茂成美
2016/2/26	サ責研修	サービス提供責任者ワークショップ	飯田橋	織茂成美

（ 居宅栄養係 ）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2015/7/28	栄養	桜町病院厨房見学	桜町病院	長津宏史・山口有昭
2015/9/8	栄養	施設サービス部厨房業務見学(選択食)	ヨハネホーム	長津宏史
2015/9/28	栄養	施設サービス部厨房業務見学(非常時食事提供)	ヨハネホーム	山口有昭
2015/9/28	栄養	発達期障がいの食事・嚥下調整食	宮地楽器ホール	山口有昭

(居宅介護支援係 (桜町ケアマネジメントセンター))

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2015/4/12	認知症	レビィ小体型認知症について	市民交流センター	高野満知子・塩田美紀
2015/5/18	医療連携	地域包括ケアについて(医師会)	医師会館	金丸直子・春日井恵
2015/5/21	権利擁護	独居のための権利擁護	貫井北町センター	金丸直子・春日井恵 高野満知子・遠藤直美
2015/5/30	その他	リハビリに強いケアマネになろう		高野満知子
2015/6/17	総合	介護保険制度改正に関して	千駄ヶ谷	春日井恵
2015/8/18	リスクマネジメント	リスクマネジメントの質の向上	御茶ノ水	金丸直子
2015/8/20	その他	質問力で磨く<相談面接技術>	萌え木ホール	金丸直子・春日井恵 遠藤直子
2015/9/29	医療連携	医療と介護の連携	文京区	遠藤直美
2015/10/21	その他	記録と文章の技術	萌え木ホール	金丸直子・春日井恵 高野満知子・遠藤直美
2015/11/4	その他	ケアプランの書き方	萌え木ホール	金丸直子・春日井恵 高野満知子・遠藤直美
2015/11/6	医療	パーキンソン病について	多摩府中保健所	高野満知子
2015/11/16	リスクマネジメント	モニタリング・苦情・事故対応に関して	萌え木ホール	全ケアマネジャー
2015/11/28	その他	主任ケアマネのこれから	国分寺	金丸直子
2016/1/21	その他	認定調査現任研修	萌え木ホール	遠藤直美
2016/1/25	医療連携	他職種協働研修(医師会)	萌え木ホール	金丸直子・遠藤直美
2016/1/26	総合	高齢になった障がい者への支援	前原集会室	金丸直子・塩田美紀 高野満知子・遠藤直美
2016/2/23	医療	口腔リハビリ	多摩リハビリ クリニック	高野満知子・塩田美紀
2016/3/5	法令遵守	指導監査・運営基準	中野	金丸直子
2016/3/17	その他	マイナンバーについて	萌え木ホール	遠藤直美

(居宅支援相談係 (小金井きた地域包括支援センター))

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2015/4/15	認知症	認知症高齢者とその家族支援の為の事例検討会	立川	鈴木裕美
2015/5/18	地域包括ケア	地域包括ケア講演会	小金井 医師会館	増田敏子・平山幸子
2015/6/19	虐待	DV被害者支援の為の基礎知識	中野	増田敏子
2015/7/7・8	地域包括	地域包括支援センター初任者研修	茗荷谷	増田敏子
2015/9/28	医療連携	(都医師会)在宅療養地域リーダー研修	竹橋	増田敏子
2015/12/5・6	認知症	認知症初期集中支援チーム員研修	渋谷	増田敏子
2016/1/7・8	地域包括	地域包括支援センター現任者研修	茗荷谷	増田敏子
2016/1/23	その他	みんなで学ぼう統合失調症	小金井 農協会館	黒松聡子・菊池里香
2016/1/25	認知症	小金井認知症多職種共同研修	萌え木ホール	増田敏子・菊池里香
2016/2/26	認知症	認知症地域支援体制推進全国合同セミナー	品川	増田敏子・黒松聡子
2016/2/26	認知症	認知症地域支援推進員の効果的な活動と 地域資源ネットワーク構築の促進に関する調査研究	追手町	増田敏子

Ⅲ 本町高齢者在宅サービスセンター（通所介護、小金井市委託事業）

【平成27年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H27)	利用率(H26)	利用率(H25)
通所介護（一般・予防）	25名	23.3名	93.2%	91.9%	92.2%
認知症型通所介護	12名	9.6名	80.0%	80.7%	80.8%
食の自立支援事業	80名	84.5名	105.6%	104.1%	104.0%

① 通所介護（予防型・一般型）

平均年齢 87歳（最高100歳、最低60歳）

男女比率 男性36%：女性64%

利用登録者 要介護者 70名 要支援者 17名 合計 87名

新規利用者 25名 主な利用理由（在宅での自立生活を保つ為の利用・転倒や認知症予防・趣味活動参加での生きがい作り・入浴希望等）

廃止利用者 19名 主な廃止理由（逝去・施設入所・転居・他サービス利用）

② 認知症対応型通所介護

平均年齢 85歳（最高99歳、最低73歳）

男女比率 男性33%：女性67%

利用登録者 要介護者 29名 要支援者 0名 合計 29名

新規利用者 15名 主な利用理由（認知症の方の全面的支援認知症ケア・見守り対応・家族介護軽減・その他等）

廃止利用者 13名 主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院）

【職員】

	平成27年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成28年3月31日の職員数				
	正職員	職員	非常勤	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	職員	非常勤	合計
					就任	退任	就任	退任	就任	退任				
センター長	1名			1名							1名			1名
生活相談員	3名			3名							3名			3名
介護職員		10名		10名			4	1	4	1		13名		13名
看護職員		4名		4名								5名		5名
栄養士調理		4名		4名								4名		4名
宅配員		7名		7名			2	2	2	2		7名		7名
食の自立Co		1名		1名								1名		1名
事務員		1名		1名								1名		1名
運転員		5名		5名				1		1		4名		4名
清掃員		2名		2名								2名		2名
合計	4名	34名		38名			6	4	6	4	4名	37名		41名

【施設運営状況】

1. 指定管理受託の更新結果報告

2015（平成 27）年度は指定管理期間の第 4 期（5 か年：平成 23 年度～平成 27 年度）の最終年度であった。

社会福祉法人聖ヨハネ会本町センターが高齢者とご家族への継続的支援を行ってきた社会的役割を 2016（平成 28）年度以後も引き続き果たし続けられるか否かが決まる 5 年間の総括年度として位置づけ取り組んできた。

おかげさまで、結果は、第 26 回小金井市指定管理者選定委員会（2016 年 8 月 26 日）で委員会の諮問を受けたのち、2016 年 11 月 24 日 第 4 回定例会厚生文教委員会で社会福祉法人聖ヨハネ会に指定管理者の候補者として選定された。

指定管理者選定委員会では、利用者ニーズの把握と対応に引き続き努力することを望むと励ましの言葉をいただいた。

2. 財務改善状況

桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンターの 2 施設の財務改善取組みとともに歩んだ 1 年であった。2015（H27）年度制度改定も在宅サービスの介護報酬費は、平均 2.27%の引き下げ率であった。特に通所介護サービス（一般型・認知症対応型）の介護報酬費は、平均 9.5%の引き下げ率と在宅サービス全体の下げ幅よりもさらに 7.23%低く抑制されるという実態であった。また、本報酬引き下げを補うための加算関係も、個別機能訓練加算（I）の取得要件も、居宅訪問によるアセスメントや 3 月ごとに 1 回以上の訪問などの手間を義務付けるという新たな縛りを設けるなど通所介護事業を経営する事業所にとってはかなりの向かい風となる改定内容であった。

とはいえ、この改定は財務改善を目指し努めている現在の聖ヨハネ会高齢福祉部門にとってはむしろ追い風となり、結果としては下記の成果を収めるところとなった。

参考値として昨年度（2014（H26）年度）の決算だが、資金収支計算書（CS）上、当期資金収支差額合計は借入金なく 1,432 万 7 千円の黒字。事業活動収支計算書（PL）上、事業活動収支差額は 1,890 万 5 千円。当期活動収支差額は 1,096 万 9 千円と黒字であった。

一方、本年度（2015（H27）年度）決算は、資金収支計算書（CS）上、当期資金収支差額合計は借入金なく、1,347 万 4 千円の黒字。事業活動収支計算書（PL）上、事業活動収支差額（「サービス活動増減差額」に呼称変更）は 1,701 万 6 千円。当期活動収支差額合計（「当期活動増減差額」に呼称変更）は、1,638 万 2 千円の黒字とし、マイナス改定を跳ね返す結果に繋がった。

主だった増収要因は、①組織規程にもとづく新たな組織運営の開始②祝祭日営業による年間営業日数増（11 日間増で 306 日）③在宅サービス部運営会議での稼働率チェック④人件費率の抑制に努めたことが挙げられる。

（1）組織規程にもとづく新たな組織運営の開始

- 新しい組織規程の運用を開始（鍋蓋型組織から階層組織へ変更）

（2）祝日営業による年間営業日数増（祝日営業 11 日により年間営業日数は 306 日）

- 祝日の一部営業開始
 - ①昭和の日（4/29） ②海の日（7/20） ③敬老の日（9/21） ④国民の休日（9/22）
 - ⑤秋分の日（9/23） ⑥文化の日（11/3） ⑦勤労感謝の日（11/23）
 - ⑧天皇誕生日（12/23） ⑨成人の日（1/11） ⑩建国記念日（2/11） ⑪春分の日（3/21）
- ※上記祝日が日曜日の際は振替休日を営業日とする。

（3）在宅サービス部運営会議の開催

- 実施日時 : 毎月第 1・3 水曜日 17:45～（於：戸塚ホール）
- 実施内容 : ①2 週間ごとの稼働率チェック
②1 か月ごとの稼働率、収入達成状況のチェック（対予算ベース）

- ③1 か月ごとの資金繰りチェック
- ④財務改善ルールの実施状況についてのモニタリングと意見交換

【利用者支援状況】

1. サービス方針に係る取組み

1) 人格を尊重した福祉の実践

(1) 労務環境改善取組み

①処遇改善計画の立案・実施

- ・賃金改善、介護負担軽減（腰痛ベルト支給）、国家資格受験料助成、健康管理支援（メンタルヘルスチェック、健康診断オプション検査助成）

②人員増

- ・入浴専従職員 1 名、週労 30 時間ケアワーカー1 名採用

③設備備品の充実

- ・ノート PC、電動自転車

(2) 人材育成取組み

①理念に則った支援の遂行

- ・事業計画キックオフ会議
- ・職員会議の活用（四半期ごとの振り返り）

②権利擁護の意識醸成

- ・権利擁護研修の企画実施
- ・外部研修（介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修）への参加（11月19日）

③セルフチェック

- ・虐待の芽チェックリストの実施

④コミュニケーション力の向上

- ・「伝わるコミュニケーション」研修の受講（9月14日）（生活相談員）
- ・「サービスマナーをふまえた介護」研修の受講（7月17日）（介護職員）

(3) その人らしさの追求取組み

①活動の充実

- ・さくらんぼ工房（虚弱者や認知症過渡期の方の居場所づくり）での折り紙活動開始
- ・認知症デイでのクッキングセラピーの実施。

②人材育成

- ・「自施設の認知症支援について考えよう」研修の受講（1月14日）

③障がい高齢者の受入促進

- ・車椅子送迎体制の充実（車椅子対応軽自動車の購入）

(4) 楽しみ、張り合い、心地よさの追求取組み

①音楽活動の充実

- ・通信カラオケの導入と実施（「思い出の一曲」というプログラムを創設）

②リハビリの充実

- ・本町センターオリジナル体操 DVD の製作と実施

③入浴サービスの充実

- ・入浴サービス枠拡充のための職員体制充実（入浴専従職員を雇用）

④行事企画の充実

- ・喫茶外出企画の充実（新たに2カ所（くすの樹・プロペラカフェ）を開拓）
- ・一般デイ、認知症デイ合同企画で行事の充実（納涼祭、敬老会、クリスマス会）

⑤ティータイムの充実

- ・湯呑の新規購入（生活ボランティアの意見反映）

- ⑥利用者の希望・要望調査
 - ・「外出企画アンケート」の企画・実施
 - ・「ご利用者の声」ヒアリングアンケートの実施

2) 安全と安心の提供

(1) 感染症予防取組み

- ①研修
 - ・ノロ感染者発生想定シミュレーション研修の企画実施
 - ・ノロウイルス感染症対策講習会の受講
 - ・手洗いチェッカーによる手洗いチェック
- ②環境整備
 - ・メディカルマスクの購入配備
 - ・ノロキット配備（車輻・建物）と毎日点検（次亜塩素消毒薬の交換）
 - ・二酸化塩素発生装置の設置
 - ・次亜塩素消毒薬による建物設備清掃
 - ・加湿器の追加購入
- ③インフルエンザ予防接種・検便検査
- ④注意喚起
 - ・マスクエチケット、手洗い、手指消毒、うがいの励行
 - ・入館ルールの徹底（手指消毒薬の配備と案内掲示）

(2) 事故災害対策

- ①防災委員会
 - ・災害時自動参集方法を確立
 - ・災害時連絡手段 web171 訓練の準備マニュアルづくり
- ②防災環境整備・強化
 - ・火災総合訓練の実施（発見⇒通報・初期消火⇒避難誘導・移動）
 - ・防災カーテン（目隠し戸棚用）、非常用メガフォンの購入
 - ・非常灯交換（不点灯箇所）
- ③普通救命講習受講
 - ・配食宅配員10名+食の自立支援事業コーディネーター1名の計11名
 - ・デイサービスは看護職員→常勤→準職員の順位で受講計画実施中
- ④送迎車輻環境の整備
 - ・全車輻スタッドレスタイヤの装着（冬季）
 - ・軽自動車の買換え（ホンダライフ⇒スズキスペーシア）

3) 地域との共生

(1) 認知症に強い街づくりへの取組み

- ①介護予防事業（一次・二次）の全面スクラップのフォローアップ
 - ・新しい総合事業導入にともない従来の介護予防事業の全面スクラップ方針を小金井市が示したことから、かいてき健康クラブ（認知症予防教室）参加者のフォローアップをする必要が生じた。
 - ・具体的には、ピースガーデン小金井、市民交流センター、桜町市民いこいの家の活動紹介と移行調整を行う。
 - ・認知症サポーター養成講座の普及啓発協力（けやき通り商店会への働きかけ）
 - ・小地域ケア会議への出席

(2) ボランティア受入体制整備の取組み

- ①募集広告
 - ・ホームページの活用（ボランティア関連情報欄を掲載できるようにした。）

- ②イベントボランティアの充実
 - ・日本社会事業大学ブラスバンド部
 - ・ラスマルガリータス（南米楽器を使用した音楽グループ）
- (3) 町会とのつながりづくり

- ①本町2丁目町会活動場所の提供
 - ・趣味、コーラス、体操、雑学グループ活動
- ②防災協定にもとづく防災倉庫の設置継続・火の用心開始拠点
- ③納涼祭へのご協力（4丁目町会からの綿あめ機械貸出）

【利用者支援状況】

● 予防デイ・一般デイ

- ・過去最高の平均利用率（93.1%）であった。
- ・理由は複数考えられるが、下表（要介護度）との関係では利用者の状態像が軽度化していることが挙げられる。
- ・デイサービスセンターが在宅の看取り介護に特化した役割機能求められつつあるなかで利用者の平均介護度が軽いという実態は今後修正すべき課題として認識したほうが良いと感じる。
- ・2015（H27）年度は、11月に年間最低稼働率（85.6%）、冬季（1月）に最高稼働率（97.7%）となったことが特徴的である。（通常、夏場・冬場は稼働率が低迷しがち）

予防・一般デイ介護度別実人数、延べ人数（2016.3月末現在）

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	66	100	437	237	56	53	0	949
割合	7.0%	10.5%	46.0%	25.0%	5.9%	5.6%	0.0%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	238	642	3151	1932	616	540	0	7119
割合	3.3%	9.0%	44.3%	27.1%	8.7%	7.6%	0.0%	100.0%

● 認知デイ

- ・平均利用率80%は昨年度の80.8%に次いで高い実績。
- ・冬季（1～3月）の稼働率低迷が年間に大きく影響した。
- ・コンスタントに稼働率が維持できない体質（風土）が依然あり。年間を通して大きく上下せず安定した経営に繋がる稼働率維持を目指した相談活動が必要。

認知デイ介護度別実人数、延べ人数（2016.3月末現在）

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	0	0	17	86	91	65	64	323
割合	0.0%	0.0%	5.3%	26.6%	28.2%	20.1%	19.8%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	0	0	190	782	851	538	575	2936
割合	0.0%	0.0%	6.5%	26.6%	29.0%	18.3%	19.6%	100.0%

(1) リスクマネジメント

● 介護事故

- ・市へ報告すべき介護事故の発生はなかった。

● ヒヤリハット

- ・ヒヤリハットは、予防デイ・一般デイで年間32件（昨年度30件）。認知デイで9件（昨年度8件）となっており、件数としては昨年同様であった。
- ・介護事故同様に抑えられた結果となっている。

- ・ただし、41 件中に 19 件と半数近くが、移動等の介助方法におけるヒヤリハットであった。具体的には、足元の確認が疎かになったためご利用者の足を踏んでしまうといったケアミスが散見される。
- ・ヒヤリハットに対しては、日常的に危険予知トレーニングの立場で、「大丈夫だろう」ではなく「危ないかもしれない」と意識することを指導しているが、現場では「忙しさ」を理由に、職員が手薄さを補うために必要なコミュニケーションを省略して「大丈夫だろう」を選択しながらケアをしている場面が少なくないと認識される。
- ・そこで、今年度はコミュニケーションに課題の多い職員の意識を変革させるため、コミュニケーション力の向上を目指し一般型デイと認知症対応型デイ職員のマルチジョブ（事業間交流）を推進した。
- ・マルチジョブの推進により膠着していた職員間コミュニケーションも風通しがよくなり、意見交換をしやすい雰囲気に変化しつつある。
- ・現在は、次年度にむけてさらにフロア間格差の解消、事業間協働体制の基盤づくりを目指し、昼食時間帯の統一化にむけ準備をすすめている。
- **車輛事故**
 - ・5 件。内訳は全て対物事故となる。内容は①配食配達中に対向車との接触、②降雪時に道を間違え、Uターンするためバック運転したところ後方の郵便ポストに気づかず接触、③バック運転した際に後方の障害物に接触 2 件、④センター前に停車しようと路肩に寄せた際に寄せすぎてポールに接触。
 - ・①は視野の狭さ+駐車位置の不適切②は焦り+目視確認不足③も目視確認不足④は焦り+過信（＝注意力不足）によるものである。
 - ・ヒヤリハットと同様、「危ないかもしれない」ではなく「大丈夫だろう」という認識の甘さが根底にあると考えられる。
 - ・更なる問題は、いずれの車輛も運転手だけではなく添乗員もいての事故であることから、添乗員の自覚と協力不足も課題として認識される。
 - ・車両事故予防に関しては、警視庁や安全運転協会にも相談しKYT（危険予知トレーニング）を職場として実施するなど、これまで実施してこなかった研修機会を新たに確保してゆけるよう取り組んでゆきたい。
- **苦情**
 - ・苦情は年間 5 件で、サービス・業務向上委員会でも取り上げた。
 - ・内訳は、①配食サービス：御飯の量が少なすぎるという苦情。対応として分量の均一化を図るためグラム数を計測した見本をつくり、それに準じた盛り付けにするルールをつくった。②デイ送迎：ご利用者の送迎漏れの苦情。対応として業務遂行能力の不足を補足する情報共有のルーティンを決めルール化した。③トイレ使用時のプライバシー侵害の苦情。対応として：「使用中」カードの貼り付け、マジックテープでのロック対応を実施した。④失禁に対する苦情。対応として、排泄タイミングを業務中心からご利用者中心に変更した。⑤トイレ使用時のプライバシー侵害の苦情。侵害したのは職員であり、当該職員が体調不良を理由にミスがあったと主張したことから、勤務日数減を行い、再発防止に繋げた。
 - ・ヒヤリハットにせよ苦情にせよ、その多くはチェック漏れのような凡ミスが多い傾向にある。また、発生背景には業務の適切遂行のためのマニュアルや手順書がない、もしくはあっても形骸化しているのが実態で、この実態は部門全体に共通した傾向で、すでに風土化しているように感じられる。
 - ・つまり、背景にはマニュアルや手順書の作成目的や意義について管理者層の理解不足があり、人材育成のOJTにおいて徹底できていない実態があると考えられる。
 - ・サービス・業務向上委員会や経営会議などの場を通じ、委員会の目的や意義について正

しい理解が得られるように、また、具体的な改善取組みに着手し徹底できるように引き続き働きかけに取り組んでゆきたい。

(2) 感染症対策

- ・ 1の2)の(1) 感染症予防取組みを参照。
- ・ 具体的には①研修②環境整備③インフルエンザ予防接種・検便検査④注意喚起の4つから対応に取り組んだ。
- ・ 課題は、昨年度に引き続きヨハネ会高齢福祉部門として感染症対策強化のための計画やマニュアルづくりに取り組めるかという点にある。現在のところ感染症対策委員会はあるが、取組内容は施設サービス部中心となっていると報告を受けており、在宅サービス部としては課題解決の進め方に課題があると感じている。

(3) サービスへの取組み

- ・ 既述の1の(3) その人らしさの追求取組み(4) 愉しみ、張り合い、心地よさの追求取組み、ならびに3) 地域との共生の(1) 認知症に強い街づくりへの取組み(2) ボランティア受入体制整備の取組みを参照。
- ・ 昨年度と同様に、課題は職員の意識改革。ヨハネ会しか知らない、本町センターしか知らない職員の保守傾向は依然根強い。
- ・ これに対し、OFF・JT、OJTの限界に対し、部門全体で人材育成や人事を検討する必要があるが、各施設とも財務改善に集中しており、今年度も十分に対応ができなかったというのが実態。
- ・ そこで、2016年度本町センターでは①マルチジョブの推進②昼食時間帯の統一の2本柱で職員の意識改革を図る方針をたて取り組むことにしたい。

【施設整備状況】

(1) 概況説明

1998(H10)年10月の開設から17年が経過し、開設当初購入した設備備品は故障が生じてメーカーから部品共有自体が厳しくなってきたり、一部を修理してもすぐに別の個所に修理が必要となるなど同時多発的な故障が増えている。

特に危機感を抱いているのは、冷暖房空調設備(GHP)と屋上防水シートの劣化である。本町センターが福祉二次避難所として市の指定を受けていることからしても、上記2点は、引き続き小金井市に予算化の検討をお願いしてゆく必要がある。

(2) 主な固定資産

- ・ ノートパソコン(富士通FMV LIFEBOOK A574/MX) ￥112,320
※インターネット環境下におけないウインドウズXPのPCを新たに買い替えた。
- ・ スズキスペース(車椅子乗車可能軽福祉車両) ￥1,498,041
※ホンダライフ(元職員井上さん寄贈)が走行距離14万*に及び、修理費が高んでいたことから、本年度は激変緩和積立金(100万円)を取り崩し新車購入に踏み切った。

(3) 主な修繕費

日付	内容	金額
8月31日	受水槽マンホールパッキン交換	￥15,000
9月28日	非常灯用電池	￥24,986
10月31日	車輛無線機移設作業代	￥21,600
11月13日	GHP空調機修理	￥125,038
11月30日	入浴機器修理代	￥14,040
1月31日	入浴機器修理代	￥14,796
3月25日	1階非常灯修理代	￥57,348
3月22日	エレベータードアロープ交換修理	￥107,568
3月31日	プラスチックラレー修理代	￥60,480

- ・市の財源にて 8 月 25 日にエレベーター制御盤マイコンバッテリー、停電灯インターホン用バッテリーの交換（¥182,628）を実施。

【その他】

- ・サービス業務向上委員会：2016 年度に第三者委員の増員計画をしていることから苦情対応規定（案）を作成し部長会議に提案している。
- ・広報委員会（HP 担当）：2015 年度はホームページ更新の定着化を実現させた。主幹しているボランティア委員会とコラボレーションして、法人本部に申し出てホームページにボランティアコーナーを新設させた。また、2016 年度に向けては、年間行事のコーナーの更新履歴を取ることにについて検討を進めているほか委員会が安定化してきたことから委員の負担軽減のため 2 か月に 1 回（奇数月第三月曜日）の開催頻度にすることやリーダー制にもとづく更新チェックの導入に取り組んでいるところである。
- ・ボランティア委員会：「利用者のニーズを知り、ボランティア活動に繋げる」ことを目的とし、同委員会が主体となり、ご利用者へのヒアリングアンケートを 7 月に実施。8 月に集約し、9 月に共有した。本町センターでは 2012 年に実施したアンケートで音楽活動やコンサートニーズが高かったが、このニーズに確かに応じてきた成果が評価として今回のアンケートに現れていた。他方、食事に係るニーズが声としてあがってきていることが明らかとなったことから、栄養部に対してアクションを起こし、栄養部との定例ミーティングを開催し、年間事業計画に行事食の年間予定を取り上げることや栄養士による喫食状況確認などを定着化される取組みを開始している。また、主幹する広報委員会（HP 担当）と協働し、法人本部の協力を得てホームページにボランティアコーナーを立ち上げた。反響として、日本社会事業大学のブラスバンド部がクリスマス忘年会にミニコンサートのイベントボランティアとして活動してくださったほか、生活ボランティア、パステル・アートのインストラクターの方などがホームページを閲覧したということでボランティアの申し出をしてくださり、活動を開始している。
- ・防災：消防訓練計画にもとづき年間を通して避難訓練（6 回）、通報訓練（4 回）、消火訓練（2 回）に今年も取り組んできた。その結果、11 月 12 日に「火災業務協力者に対する表彰状の贈呈」を小金井消防署長より受けることとなった。
- ・事業計画書まとめ：事務管理部で 2016 年度も事業計画のとりまとめが難しいとのことから編集作業を行った。
- ・㈱T o o の山崎芳嗣先生よりコピック・アートの世界をネットで配信する企画があがり、撮影に協力する。

【事業状況】(利用実績集計表・利用率の推移)

事業別 2015(H27)年度 利用実績集計表 2015年4月～2016年3月 本町高齢者在宅サービスセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護保険	通所介護・一般 日数	26	23	26	27	26	26	26	25	25	24	25	27	306	
	25名/日 定員	650	575	650	675	650	650	650	625	625	600	625	675	7,650	
	介護給付 (20人想定)	登録数	65	67	68	70	67	65	65	59	61	67	63	63	-
		実利用者数	65	67	68	70	67	65	65	59	61	67	63	63	-
		延利用者数	535	488	548	556	537	525	528	451	490	510	536	533	6,237
		人数/日当	20.6	21.2	21.1	20.6	20.7	20.2	20.3	18.0	19.6	21.3	21.4	19.7	20.4
		利用率	102.9%	106.1%	105.4%	103.0%	103.3%	101.0%	101.5%	90.2%	98.0%	106.3%	107.2%	98.7%	101.9%
	予防給付 (5名想定)	登録数	12	11	12	14	13	13	16	16	17	17	14	13	-
		実利用者数	12	11	12	14	13	13	16	16	17	17	14	13	-
		延利用者数	68	58	68	79	77	74	80	84	82	76	66	70	882
		人数/日当	2.6	2.5	2.6	2.9	3.0	2.8	3.1	3.4	3.3	3.2	2.6	3.0	2.9
		利用率	52.3%	50.4%	52.3%	58.5%	59.2%	56.9%	61.5%	67.2%	65.6%	63.3%	52.8%	60.9%	57.6%
	小計	延利用者数	603	546	616	635	614	599	608	535	572	586	602	603	7,119
	利用率	92.8%	95.0%	94.8%	94.1%	94.5%	92.2%	93.5%	85.6%	91.5%	97.7%	96.3%	89.3%	93.1%	
	事業	通所介護・認知症 日数	26	23	26	27	26	26	26	25	25	24	25	27	306
12名/日 定員		312	276	312	324	312	312	312	300	300	288	300	324	3,672	
登録数		29	28	26	26	26	29	28	27	27	26	24	26	-	
実利用者数		29	28	26	26	26	29	28	27	27	26	24	26	-	
延利用者数		222	224	250	274	270	262	263	254	252	226	218	221	2,936	
人数/日当		8.5	9.7	9.6	10.1	10.4	10.1	10.1	10.2	10.1	9.4	8.7	8.2	9.6	
利用率		71.2%	81.2%	80.1%	84.6%	86.5%	84.0%	84.3%	84.7%	84.0%	78.5%	72.7%	68.2%	80.0%	
通所介護合計		実利用者数	106	106	106	110	106	107	109	102	105	110	101	102	
延利用者数		825	770	866	909	884	861	871	789	824	812	820	824	10,055	
※通所介護全体利用率		85.8%	90.5%	90.0%	91.0%	91.9%	89.5%	90.5%	85.3%	89.1%	91.4%	88.6%	82.5%	88.8%	
地域支援事業		かいてき健康クラブ 日数	4	3	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	44
		12人/日 定員	48	36	48	60	48	48	48	48	48	48	48	0	528
		登録数	18	18	16	15	15	15	18	18	18	18	18		-
		実利用者数	18	18	16	15	15	15	18	18	18	18	18		-
		延利用者数	70	44	48	70	55	70	72	70	68	68	65		700
	利用率	145.8%	122.2%	100.0%	116.7%	114.6%	145.8%	150.0%	145.8%	141.7%	141.7%	135.4%	#####	132.6%	
	家族介護者教室	回数								1					1
	利用者数									24					24
	認知症高齢者家族交流	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		11
	利用者数	6	4	9	6	5	6	5	11	5	5	9			71
	食の自立支援事業	食の自立支援事業 日数	25	23	26	26	26	23	26	23	22	23	24	26	293
		80人/日 定員	2000	1840	2080	2080	2080	1840	2080	1840	1760	1840	1920	2080	23,440
		①②③⑤ 延食数	2104	1881	2123	2191	2215	2029	2221	1940	1989	1935	2033	2181	24,842
		利用率	105.2%	102.2%	102.1%	105.3%	106.5%	110.3%	106.8%	105.4%	113.0%	105.2%	105.9%	104.9%	106.0%
		①配食サービス	登録数	209	207	205	208	211	209	207	196	197	202	200	201
実利用者数			198	189	192	198	200	201	201	196	197	194	192	195	-
延食数			2100	1871	2111	2176	2211	2020	2211	1936	1979	1932	2028	2178	24,753
食/日当			84.0	81.3	81.2	83.7	85.0	87.8	85.0	84.2	90.0	84.0	84.5	83.8	84.5
利用率		105.0%	101.7%	101.5%	104.6%	106.3%	109.8%	106.3%	105.2%	112.4%	105.0%	105.6%	104.7%	105.6%	
②緊急配食		実利用者数	0	1	1	2	0	1	1	0	1	0	0	0	11
		延食数	0	6	6	8	0	6	3	0	6	0	0	0	35
③活動会食サービス回数		回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延利用者数	4	4	6	7	4	3	7	4	4	3	5	3	54
④いっぽくカフェ (閉じこもり防止)		回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延利用者数	5	6	4	6	4	5	5	5	6	4	5	6	61
⑤栄養マネジメント (自立推進クラブ)	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑥調査・ケアプラン 新規・継続	回数	11	8	11	11	11	6	7	8	8	8	6	11	107	
	延利用者数	1	0	1	1	3	2	0	2	0	1	1	2	14	
独自事業	高齢者見守りサービス	実利用者数	1	0	1	1	3	2	0	2	0	1	1	2	14
	パーティタイム(自費)	実利用者数	2	0	3	1	5	2	0	2	0	1	1	2	19
	地域社会支援① 元気です本町2丁目会等	回数	7	8	8	8	2	8	8	8	5	3	4	8	77
		延人数	31	45	43	47	8	44	45	47	34	14	19	45	422
	地域社会支援② いきいき健康クラブ	回数	4	3	4	3	3	4	4	3	4	3	3	5	43
		延人数	15	12	15	12	12	16	14	12	12	9	11	20	160
	日常生活支援 (各種相談対応等)	実人数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
		延人数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	ボランティア活動	実人数	32	39	39	37	36	42	34	37	38	35	30	33	-
		延人数	96	89	106	115	86	140	90	87	144	78	85	82	1,198
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

【教育研修一覧】

2015年度 研修実施一覧表

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2015/4/18	消防・防災	普通救命講習	小金井消防署	戸部 修
		普通救命講習	小金井消防署	藤木 寛
		普通救命講習	小金井消防署	渡辺 栄一
		普通救命講習	小金井消防署	近江 星樹
		普通救命講習	小金井消防署	小貫 勝
		普通救命講習	小金井消防署	長瀬 洋子
		普通救命講習	小金井消防署	星野 三枝子
		普通救命講習	小金井消防署	鴨下 みな子
		普通救命講習	小金井消防署	芹沢 由美
		普通救命講習	小金井消防署	田上 善朗
		普通救命講習	小金井消防署	井戸 恵
2015/4/20~5/24	新任研修	本町センター通所介護新任研修	本町センター	近江 星樹
2015/5/13	消防・防災	自衛消防訓練合同指導会	小金井消防署	近江 星樹
2015/5/15	認知症	認知症サポーター養成講座	桜町センター	田上 善朗
		認知症サポーター養成講座	桜町センター	小貫 勝
2015/6/22	理念研修	平成27年度日本カトリック老人施設協会 関東支部研修大会	静岡県	山極 愛郎
		平成27年度日本カトリック老人施設協会 関東支部研修大会	静岡県	吉田 貴夫
2015/7/1~7/31	新任研修	本町センター通所介護新任研修	本町センター	岡本 径子
2015/7/17	介護	法人合同研修 サービスマナーを踏まえた介護	戸塚ホール	久保 あゆみ
		法人合同研修 サービスマナーを踏まえた介護	戸塚ホール	高野 幸子
		法人合同研修 サービスマナーを踏まえた介護	戸塚ホール	大木 清美
		法人合同研修 サービスマナーを踏まえた介護	戸塚ホール	近江 星樹
		法人合同研修 サービスマナーを踏まえた介護	戸塚ホール	岡本 径子
2015/8/26	消防・防災	AED(自動体外式除細動器)研修	桜町病院	益井 加代子
2015/9/14	介護	法人合同研修 「伝わるコミュニケーション」をすすめるために	戸塚ホール	吉田 貴夫
		法人合同研修 「伝わるコミュニケーション」をすすめるために	戸塚ホール	川村 八千代
		法人合同研修 「伝わるコミュニケーション」をすすめるために	戸塚ホール	山田 知子
2015/10/24	リスクマネジメント	デイサービス職員向けリスクマネジメント研修	新宿区	吉田 貴夫
2015/11/13	認知症	認知症サポーター養成講座	桜町センター	長島 麻綾
2015/11/19	権利擁護	介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修	新宿区	山田 知子
2015/11/22	消防・防災	普通救命講習	小金井消防署	長島 麻綾
	消防・防災	普通救命講習	小金井消防署	鈴木 圭子
2015/12/3	介護保険制度	総合事業における小金井市の進捗報告と 運営シミュレーション	萌え木ホール	吉田 貴夫

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2015/12/18	嚥下・摂食	「嚥む・飲み込むが困難な人の食事」	口腔リハビリテーション 多摩クリニック	山田 知子
	嚥下・摂食	「嚥む・飲み込むが困難な人の食事」	口腔リハビリテーション 多摩クリニック	清水 香名子
2016/1/4～1/30	新任研修	小金井市認知症多職種協働研修	萌え木ホール	西村 貴子
2016/1/14	認知症	法人合同研修 自施設の認知症支援について考えよう	戸塚ホール	川村 八千代
	認知症	法人合同研修 自施設の認知症支援について考えよう	戸塚ホール	久保 あゆみ
	認知症	法人合同研修 自施設の認知症支援について考えよう	戸塚ホール	益井 加代子
2016/1/25	認知症	本町センター通所介護新任研修	本町センター	鳥羽 香理
2016/2/15	人材対策	外国人技能実習生制度の概要と留意すべきこと	新宿区	山極 愛郎
2016/2/20	消防・防災	普通救命講習	小金井消防署	西村 貴子
2016/2/20	消防・防災	普通救命講習	小金井消防署	清水 香名子
2016/2/25	介護保険制度	次期介護保険法改正と通所介護	新宿区	山極 愛郎
2016/3/1～3/31	新任研修	本町センター通所介護新任研修	本町センター	郷原 弥生
2016/3/15	介護	介護職員現任研修	社会医学技術学院	吉野 遼
2016/3/22	介護	介護職員現任研修	社会医学技術学院	郷原 弥生
2016/3/19	消防・防災	普通救命講習	小金井消防署	木戸 幸代
2016/3/19	消防・防災	普通救命講習	小金井消防署	山田 知子

3. 医療部門

【 総 括 】

1. 収入

入院患者数が計画に届かなかったことから計画収入を計上できなかった。

計画 3,225,573 千円

実績 3,159,930 千円 (計画比▲65,643 千円、昨年度比+102,306 千円)

患者数 入院 計画 162 人 実績 156.6 人 (▲5.4 人、昨年度比+4.2 人)

外来 計画 393 人 実績 381.3 人 (▲11.7 人、昨年度比▲3.7 人)

診療単価 入院 計画 35,603 円 実績 35,838 円 (+235 円、昨年度比▲169 円)

外来 計画 6,111 円 実績 6,355 円 (+244 円 昨年度比+317 円)

入院診療収入 診療単価は計画を上回ったが、患者数の減をカバーできず計画収入を下回った。

外来診療収入 患者数は計画に届かなかったが診療単価が上がったことからほぼ計画した収入を上げることができた。

2. 支出

支出については、業務遂行に支障のない範囲内での支出抑制や節減に努め、科目ごとの増減はあるものの計画内に納めることができた。

計画 3,301,823 千円

実績 3,293,050 千円 (計画比▲56,446 千円、昨年度比+52,139 千円)

材料費 計画比+4,945 千円 昨年度比+10,526 千円

給与費 計画比+29,599 千円、昨年度比+80,392 千円

器械賃借料 計画比▲1,558 千円 昨年度比▲40,426 千円

器械保守料 計画比+984 千円 昨年度比+5,681 円

電力費 計画比▲1,498 千円 昨年度比▲2,197 千円

診療費減免額 計画比+9,593 千円 昨年度比+6,203 千円

3. 収支差

収入が計画に対し未達となり、当期利益は 20,393 千円の欠損となった。

4. さくらまち保育所は、保育児実数 46 人の保育を行った。

事業活動収支において▲17,196 千円となった。

5. 桜町児童ショートステイは、小金井市始め小平市など近隣市の障害児の短期入所 239 人及び日中一時支援 264 人の支援を行った。都立小金井特別支援学校改築工事のため一時移転しているため、スクールバスによる通学支援を開始した。

事業活動収支において▲4,474 千円となった。

I 桜町病院（生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業）

【運営状況】

1. 事業概況について

平成 27 年度は運営方針として掲げた、①経営の黒字化を実現する。②医療の質の向上を図り、患者満足度の高い医療を実践する。③地域の医療機関等との連携の強化を図る。④安全な医療を効率的に提供するために、診療情報システムを活用しやすい環境を整備し実践する。④病院の機能に見合った職員を確保するとともに、職員の資質向上のために研修環境の充実を図る、という 5 つの方針に沿って運営してきた。概ね順調な運営ができたが、黒字化を達成することは出来なかった。

平成 27 年度は、2 年間続いた赤字経営を是が非でも黒字にすることを最大の課題として運営してきた。幸い医師や看護師の補充ができ体制が整ったことから、診療科ごとに増減はあるものの、全体としては患者数、収入ともに昨年度を上回る実績を残すことができたが、増額している減価償却費や機器賃借料、また控除対象外消費税の負担額を上回る収入を上げられなかったために、赤字額は縮小したものの黒字を達成することができなかった。

(1) 人員確保

11 月に療養病棟管理やドック・検診部門の体制強化を図るために、内科系医師を採用した。看護師については平成 27 年度は看護師の定着率が上がり退職者が減少し、また退職者補充もでき全体的としては安定した体制を整備することができた。看護師配置の課題を抱えていたホスピス病棟についても一定数の看護師を配置できたために、計画入院患者数に近い患者確保が図られた。

保育所の保育士の確保については困難を極めている。

(2) 診療体制

診療体制においては、内科系医師を採用したことにより療養病棟管理とドック・健診部門の体制強化を図ることができた。又、糖尿病専門の部長発令をしたことに伴い糖尿病・代謝内科を新たに標榜した。これに合わせて循環器科を循環器内科、呼吸器科を呼吸器内科、消化器科を消化器内科に名称変更した。

6 月から試行的に助産師外来を毎週月曜日午後を開始した。妊産婦に対するきめ細かいサービス提供として、利用者から高い評価を得ている。

(3) 患者数

患者数については、昨年の実績を上回ったが、計画数には達しなかった。

季節性疾患があまり流行しなかった影響もあるが、内科系の患者の減少が大きかった。一方、ホスピス病棟は看護師の入れ替えや補充により看護師の体制が整ったために、積極的に患者を入院させ増患となった。又、整形外科は脊椎疾患や関節疾患の治療における専門性が近隣の医療機関や患者などに周知してきたこともあり、計画を上回る高い患者数を確保することができた。何れも増収となった。しかしながら、産婦人科は関連大学からの紹介患者の減少もあり婦人科の手術件数が減少しており、産婦人科の患者数が計画数に届かなかった。このため、産婦人科の収入額は昨年度より大きく落ち込んだ。黒字達成ができなかった要因の一つとなった。

(4) チーム医療の推進

異なる職種スタッフが情報を共有し、連携を図りながら協働し、それぞれの専門性を発揮しながら、総合的に効率よくきめ細かい良質な医療を提供することを目的に当院においても既に幾つかのチームが活動している（褥瘡管理、感染管理（ICT）、医療安全管理、糖尿病チーム）。

27年度には、一般病棟で入院しているがん患者さんなどの身体的・精神的苦痛、社会的苦痛及びスピリチュアルな苦痛の軽減によるQOLの維持向上を図るために、ホスピス病棟でのケアのノウハウを生かしたチームケアの取り組みを開始した。次年度から具体的な活動が予定されている。

(5) 患者サービス

接遇・患者対応については、苦情も寄せられるが、投書件数を見ると接遇や対応・態度に関する苦情が多くなっていないことから、「桜町マインド」が職員に浸透してきているものと思われる。

7月からは、一般病棟で不穏のある患者さんなどに、シスターによるスピリチュアルサポートが開始され、より一層一人ひとりの患者さんにきめ細やかな対応ができるようになった。好評である。また、10月からは緑地に桜町マインドロゴを配した腕章をつけた看護師を「コンシェルジュ」として外来受付周辺に配置し、来院者の案内や相談に応じ、きめ細かな対応に努めてきた。

(6) 病院情報システムの運用

電子カルテ・オーダーリングシステムは、開始から2年を経過した。大きなトラブルもなく運用させることができています。ソフトの改修も徐々に進んでいる。ただし、フルオーダーが稼働したものの待ち時間、特に会計待ち時間については目に見える短縮につながっていないため、改善に向けた検討を進めてきたが、抜本的な改善策を実行するまでには至らなかった。

(7) 業務改善とQC活動推進委員会の活動

病院機能評価更新のための受審を2年後に控え、今年度は各部署単位ではあるが病院機能評価受審項目や東京都の病院自主管理チェックリストに沿った業務改善を進めるほか、外部状況の変化などに対応した医療安全や感染管理に関するマニュアルの改訂を進めてきた。一方、医療安全管理や経営改善、業務改善、サービス改善は日常の業務活動や各種委員会活動の中からの気付きや問題認識を改善につなげるために、今年度は「QC活動推進委員会」を立ち上げQC活動を後押しすることとし、QC活動の基盤整備を図ってきた。委員会においては、QC活動のモデルケース作りとして、2階放射線科や生理検査部門への案内の改善としてサインの見直しに取り組み、一応の成果を出すことができた。

(8) 地域医療連携の拡充

地域包括ケアシステムや在宅を重視した医療制度改革が進められる中、地域包括ケアシステムにおいては、住み慣れた地域内において安心して暮らせるように医療、介護が連携して体制を構築することが求められている。小金井市においても医師会や関係機関がシステム構築を検討している。当院もその検討の中で一定の役割を果たしている。

近隣の開業医の先生方に当院の診療体制や診療の領域等について理解を深めていただき、当院との連携を拡大する中で地域の患者さんが切れ目のない医療を受けることができるように、開業医の先生方との懇談の機会を持ってきた。今後も定期的に講演会・懇談会を開催

し、一層の連携拡充につなげていく予定だ。又住民の健康の保持増進と桜町病院の診療内容を知っていただくために、6月、9月に市民講演会を開催した。

(9) 退院支援体制の充実

医療提供の場所として「在宅」が重視されつつある。病院と在宅医療又は他の施設との連携強化の重要性が増していく中で、これまでも地域医療連携室のMSWが中心となって患者の退院先の医療・福祉施設確保や退院後の生活維持のための社会資源の活用支援などを行ってきたが、9月に専ら患者の退院支援を担当する退院支援担当看護師長を配置した。従来以上に病棟看護師との連携、地域の医療機関や在宅サービス機関とも連携した退院支援が行われている。又、診療報酬の施設基準を満たすために退院支援専門組織として地域医療連携室に退院支援係を新設した。スムーズな退院や連携の充実を図っており、実績も積まれ退院調整加算の算定も徐々に上がってきた。

(10) 人材育成

27年度は「資格取得支援制度」の活用元年となった。日常的な活動を強化する必要がある感染管理分野及び高齢社会において益々重要性を増す認知症対策分野での、看護師の専門性を高めるための講義受講合格者を出すことができた。平成28年度には受講・受験の上、認知症資格取得及び感染管理資格を取得する予定である。

リハビリテーション科は、次年度秋からの小児リハビリテーション開始に向けて、PT・OTが小児リハの知識・技術を習得するために、近隣の病院での実習を始めた。これまで2名が6ヶ月の実習を終え、3名目が自習中である。

(11) 敷地内禁煙の実施

5月31日から敷地内禁煙実施。受動喫煙防止対策も盛り込んだ健康増進法が施行されて10年以上が経過し、多くの病院において敷地内禁煙の取り組みがされている。受動喫煙防止を徹底するとともに、患者さんや職員の喫煙者の減少につながることも視野に、敷地内禁煙に踏み切った。これまで大きなトラブルもなく推移している。アンケート調査の結果では、職員の喫煙率が低下している。

2 数値計画の達成状況

今年度から「社会福祉法人会計」による会計処理を行っているが、年度計画や昨年度との比較ができるように病院会計基準に置き替えて説明する。

収入が計画を達成することができなかったことから、黒字にすることができなかった。

(1) 医業収益

計画 3,225,573 千円、→、実績 3,159,930 千円 (▲65,643 千円) 昨年度比+102,306 千円)

・患者数 入院 計画 162 人→実績 156.6 人 (▲5.4 人)

外来 計画 393 人→実績 381.3 人 (▲11.7 人)

・診療単価 入院 計画 35,603 円→実績 35,838 円 (+235 円)

外来 計画 6,111 円→実績 6,355 円 (+244 円)

・入院診療収益 2,110,973 千円→2,056,183 千円 (▲54,790 千円)

入院診療単価は、計画を上回ったが患者数の減少をカバーできるほどではなかったことから、入院収益は予算比で5.5千万円の計画減となった。

・外来診療収益 708,479 千円→708,035 千円 (▲444 千円)

外来は、患者数が計画に大きく届かなかったが、患者数に占める割合が大きい内科の診療単価が大きく上がっている(計画比+667円、昨年度比+679円)ことから予算

比で若干のマイナスにとどまった（▲444千円）。

・医業収益 計画に対し▲65,643千円、昨年度同期比では+102,309千円となった。

(2) 医業費用

計画 3,238,027千円→実績 3,226,271千円（▲11,756千円）昨年度比+35,289千円。

支出については「収入見合いの支出」という考え方の下に節減を図ってきた。

支出は勘定科目によっては計画を上回っているものはあるが、トータルでは計画内に収めることができた。

(3) 医業利益

収入が計画未達であることから、▲66,341千円となった（昨年度比+67,020千円）。

(4) 当期利益

医業外収益や臨時利益を含めた当期利益は、▲20,393千円と黒字にすることができなかった（昨年度比+52,141千円）。

3. さくらまち保育所

さくらまち保育所は、平成 27 年度は、保育士 7 名の体制で 1 日平均保育児数約 12 人の保育を行った。当該年度中に保育所を利用した児童実数は 46 人で、平日保育の他、24 時間保育 75 回、休日保育 44 回を行った。

4. 桜町児童ショートステイ

桜町児童ショートステイは、常勤保育士 4 名、非常勤保育士 1 名の体制で障害児の短期入所 239 人及び日中一時支援 264 人の支援を行った。

平成 27 年度から、同ショートステイを利用する多くの障害児が通学する都立小金井特別支援学校が校舎改築のために移転している 3 年間の通学支援が始まった。関係市の支援を得ながらスクールバスによる通学支援や補助的にタクシー通学支援を行っている。

【平成 27 年度活動状況報告】

種別	許可病床数	患者数/日	延患者数	利用率 (H26 度)	利用率 (H25 度)	利用率 (H24 度)
入院	199 床	156.6 人	57,307 人	78.7%	76.6%	78.1%
外来	—	381.3 人	112,486 人	—	—	—

平均在院日数	22.8 日 一般 16.4 日 ホスピス 47.8 日 療養 419.8 日
新入院患者数	2,524 人 (前年度 2,507 人)
退院患者数	2,523 人 (前年度 2,505 人)
時間外患者数	548 人 (前年度 544 人)
紹介率・逆紹介率	紹介 11.4% 逆紹介 11.2%
手術件数	877 件 (前年度 878 件)
全麻件数	336 件 (前年度 426 件)
分娩件数	455 件 (前年度 483 件)
人間ドック件数	入院 6 件 (前年度 13 件) 外来 635 件 (627 件)

【無料低額診療】 上段：平成 27 年度 下段：平成 26 年度

1. 受診人数

新規実人数	継続実人数	実人数計	延べ受診人数
22	7	29	126
13	9	22	81

2. 診療科別件数

内科	精神科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科
55	0	3	7	31	0	38
36	1	0	8	13	3	36

3. 依頼者別件数

福祉事務所	社会福祉協議会	難民支援	ホームレス支援団体	他病院	その他	合計
15	0	25	4	3	79	126
3	7	26	0	0	45	81

【職員】 平成 27 年度年度始め・年度末職員数及び退任・就任状況

区分	平成 27 年 4 月 1 日の職員数				年間退任・就任						平成 28 年 3 月 31 日の職員数			
	正職員	職員	非常勤	嘱託	正職員		非常勤職員		嘱託		正職員	職員	非常勤	嘱託
					就任	退任	就任	退任	就任	退任				
院長	1										1			
副院長	2										2			
医師	19	43	1	3	1	18	10				21	51	1	
助産師	11	7		2	3	3	3				10	7		
看護師	75	47	1	22	11	11	8				86	50	1	
准看護師	4	3	3	3	1		1				6	2	3	
看護助手	21	6	1	3	4	1	3				20	4	1	
薬剤師	5	2									5	2		
放射線技師	7					2					7	2		
臨床検査技師	7	2	1								7	2	1	
PT・OT・ST	12	4	1		2						11	6	1	
栄養士	6	2				2	1				6	3	0	
MSW	5			1	1						5			
事務部	18	8		1		2	2				19	8		
施設	3	1					1				3			
その他	17	27	1	3	2	6	6				18	27	1	
合計	213	152	9	38	24	47	35				227	164	9	

注：就任・退任数には4月1日就任数及び3月31日退任数を含む

事務部の人数は（事務部長・総務課・経理・医事課）

その他の人数は（看護部長室・ORT・診療技術部助手・調理師・調理員・心理士・保育士等）

【患者動向】.

平成 27 年度診療科別患者状況

区 分	入 院		外 来	
	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単 価 (円)	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単 価 (円)
内科	42.8	25,101	122.2	8,274
	45.8	25,268	126.6	7,595
精神神経科	—	—	36.5	5,089
			38.1	4,919
小児科	2.5	28,410	67.3	4,237
	2.3	29,016	63.1	4,519
外科	11.8	28,496	18.6	5,731
	12.1	28,266	15.0	6,033
整形外科	25.4	42,090	54.6	6,565
	21.1	44,465	54.0	6,008
産婦人科	19.9	77,359	48.7	5,940
	21.5	76,148	53.7	5,429
眼科	0.9	129,740	31.7	5,617
	0.9	121,186	32.6	5,481
ホスピスコ	14.2	45,147	1.7	5,094
	9.8	44,973	1.9	2,740
ホスピス内 科	3.0	25,976	—	—
	2.1	27,194		
療養	36.8	19,161	—	—
	35.1	19,243		
計	156.6	35,838	381.3	6,355
	152.4	36,007	385.0	6,038

注：上段 27 年度 下段 26 年度

【27年度機器等整備状況】

機 器 等 名	数量	新設・更新・増設・ 修繕	整備部署
フライトパーソナル・プロテクション	1	新規	整形外科
超音波診断装置	1	更新	産婦人科
妊婦検診オプションソフトウェア	1	新規	産婦人科
手術用顕微鏡	1	新規	眼科
ウッドウェイトレッドミル・高機能ユニット付	1	新規	リハビリ科
クッション材（小児壁画）	1	新規	リハビリ科
全自動注射払い出し装置改修	1	補修	薬剤科
インキュベータ	1	更新	南2階病棟
洗浄器	1	更新	手術室
手すり付き自動身長体重測定器	1	増設	外来
ノートパソコン	2	増設	地域医療連携室
コールドテーブル	1	更新	職員給食室
シリンジポンプスタンド	5	更新	ME管理室

【27年度施設・設備整備状況】

改修・修繕（修理）・模様替え・補修
病院本館空調機オーバーホール
手術室・分娩室・新生児系加湿装置
厨房室調用中性能フィルター
専用水道各水構劣化部改善
病院外構樹木剪定
エアコン改修
受水槽塗装

【27年度教育研修実施状況】

研修名（研修タイトル）	年月日	開催場所	出席者数
トリアージ研修	27.6.17	戸塚ホール	34名
クリニカルパス導入の 実際と展開	27.7.13	〃	36名
禁煙のすすめ	27.7.16	会議室	10名
QC活動の基本と進め 方	27.8.21	戸塚ホール	29名
AEDについて	27.8.26	会議室	24名
退院調整看護師の役割 と病棟看護師ができる 退院調整	27.8.26	戸塚ホール	28名
SBAR～コミュニケー ーションツールとして のSBAR～	27.10.5	〃	62名
結核と院内感染	27.11.27	〃	44名
働きやすい職場作り	28.1.27	〃	32名
スピリチュアルケアに つながる「聴く」力を養 う	28.2.3	〃	62名
フィジカルアセスメン ト 栄養と代謝	28.2.4	〃	29名
平成27年度院内研究 発表会	28.3.12	会議室	30名

【市民講座】

研修内容	年月日	開催場所	出席者数
やさしく学ぶ熱中症の 予防法・対処法 お部屋でできる簡易ス トレッチ体操	27.6.17	戸塚ホール	18名
認知症について 口腔ケアについて	27.9.5	〃	42名

<27年度さくらまち保育所>

項 目	実 績
保育児数	保育児延べ数 3,670 人（前年度 3,356 人）
	平日 3,488 人 休日 182 人
24 時間保育	延べ回数 86 回（前年度 75 回）
	延べ保育児数 167 人（前年度 182 人）
職員数	延べ数 1,608 人（前年度 1,228 人）
行事等	定期健康診断 5 月、11 月
	遠足 10/17（土） 雨天のため中止
	クリスマス会 12/20（土） 45 人参加（保育児数 22 人）
	卒園式 3/15（土） 36 人参加（保育児数 19 人）

<27年度桜町児童ショートステイ>

項 目	実 績
短期入所 利用者数	239 人（前年度 304 人）
利用日数	670 日（前年度 1,006 日）
日中一時支援利用者数	264 人（前年度 299 人）
利用日数	465 日（前年度 613 日）
利用者住所地	小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市

4. 公益事業部門

I 小金井訪問看護ステーション（訪問看護）

【平成27年度利用状況報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医保利用者	9	9	9	9	9	9	9	11	11	11	11	11	118
訪問件数	35	30	35	33	34	40	37	37	57	53	53	49	493
介保利用者	57	57	55	59	59	56	55	57	54	52	53	54	668
訪問件数	251	207	255	282	246	221	237	224	210	197	209	227	2766
(訪問リハ件数)	19	15	30	37	24	23	22	23	27	32	36	44	332

【職員】

正職員 2名

非常勤職員 3名

- ・常勤職員 就任 1名（6月） 退任 1名（6月）
- ・非常勤職員 就任 2名（6月・1月） 退任 3名（6月・8月・3月）

【施設運営状況】

- ・平成27年度は昨年度にまして職員の異動が多かった。その影響で訪問件数が低下したが、職員の努力により年間通して新規依頼に対応することが出来たこと、昨年再開した訪問リハビリが順調に件数を増やせたことなどにより、予算通りの収益を得ることが出来た。職員を採用しても、ひとりで訪問看護を提供できるまでにはある程度経験、体得する期間が必要となることから、職員教育、サポート方法など検討する課題は残っている。
- ・職員の負担となっている事務作業を減らすことも課題であるが、本年自己負担金の徴収を銀行引き落としにすることができ、これまで金銭のやりとりで費やした時間を利用者への対応に充てられ、職員・利用者ともに良い点となった。
- ・利用者に関しては、職員数が増えないため昨年と同様の利用者数であるが、主治医では桜町病院の患者が利用者全体の47%を占めるようになっている。平成22年度は25%であったことをみると、桜町病院とともに地域へ支援する体制となっている。
利用者の特徴として、医療依存度は低いが認知障害により体調、服薬の管理ができない方、高齢者二人暮らしでどちらとも介護が必要な方などが多い。訪問看護だけではサポートは難しく、医療、福祉サービスとの綿密な連携がより求められている。
- ・訪問終了者の理由の中で38名中3名の方が24時間対応のステーションへの移行である。主治医が訪問診療を行う医師へ変更するにあたり、連携するステーションへ変わった方もいる。訪問診療を行う医療機関は小金井市内、近隣の市にも徐々に増えており、今後24時間支援体制にどの程度のニーズがあるのか、把握に努めていくこととした。

・昨年より小金井医師会主催の「地域包括ケアシステム勉強会」に参加しているが、医療・介護が必要な方だけへの支援ではなく、住民皆がサポートしあう「町づくり」を目指すことが最終的な目標になると感じている。ヨハネ会の中でその一端を担える存在になれるようにステーション職員の意識、技術の研鑽を引き続き行う。

【利用者支援状況】

1. 利用者数（年間登録者）

102名（男 49名 女 53名）※前年度 101名

2. 利用者の住所

小金井市 100名 ・武蔵野市 1名

3. 主治医（利用者 102名）

桜町病院 48名（前年度より +5名）

その他の医療機関病院 15名（前年度より -6名）

市内の開業医院 30名（前年度より -2名）

他市の開業医院 9名（前年度より +3名）

4. 新規利用者紹介もと

平成 27 年度新規利用者 38 名（前年度 33 名）

包括	ケアマネ	医療機関	市役所	個人
4	24	6	2	2

※桜町病院主治医 18 名

5. 訪問終了者 38名（前年度 35名）

終了理由

死亡	入院	特養入所	有料ホーム	転居	他 ST へ移行	その他
9	11	2	5	4	3	4

【教育研修】

研修名	年月日	主催	出席者
在宅難病患者ケア	H27.6/17.7/2	都医学総合研究所	眞下 里美
認知症ケア	H27.6/18	都ナースプラザ	福田久美子
タテマールケア	H27.6/17	都ナースプラザ	高橋真由美
伝わるコミュニケーション	H27.9/14	ヨハネ会本部	福川美津子
管理者研修	H27.11/25.11/29	都福祉保健財団	當山典子
認知症研修	H27.9/18	市内ステーション	福川美津子
認知症他職種研修	H28.1/25	小金井医師会	福川美津子
新人研修	H28.1/21～2/23	ST・法人内施設	白石由佳

I 聖ヨハネホスピスケア研究所

【平成27年度活動状況報告】

1) ホスピスセミナー

医療関係者以外に一般市民、看護学生など対象に実施。計7回実施。参加者190名

2) 医師研修

「ホスピス緩和ケアドクター養成研修」 (笹川記念保健協力財団助成事業)

1年間を通し、ホスピス緩和ケアの理念、および知識・技術を学ぶ。

平成27年度はなし。

4) 音楽療法

非常勤研究員の音楽療法士による、入院患者1人1人のニーズに応える個別の音楽療法

「音楽宅配便」を、基本的に週1回実施した。

5) 講演会

ケアタウン小平と共催にて実施。

テーマ「笹原留似子 いのちを語る」 講師：笹原留似子氏

(3月24日 小金井市民交流センター 大ホール) 参加者 409名

6) 学会発表・研究 平成27年度はなし。

7) ホスピスボランティア講座

聖ヨハネホスピスと共催で5月～6月の2ヶ月間に計7回の講習を実施。参加者 29名

8) 「アロマセラピー」の取り組み

病棟スタッフと委託研究員のアロマセラピスト1名と共に、患者・家族へアロマセラピーを毎月1回実践。

年後半よりアロマセラピストの事情により、病棟スタッフのみで実施。

9) 研修会の実施

主に在宅医療・療養に従事する職業を対象に、以下の4回の研修会を実施した。

a) 「よくわかる！スピリチュアルペインとそのケア」 (7月 山崎所長)

参加者 29名

b) 「終末期がん患者さん・ご家族へのケア」

(9月 山崎所長・ケアタウン小平訪問看護ステーション樋口敬子様)

参加者 14名

c) 「終末期がん患者さん・ご家族へのケアのポイント」

(12月 山崎所長・ケアタウン小平訪問看護ステーション樋口敬子様)

参加者 39名 (広報地域を変えて募集)

d) 「どう支える 看取りまでの1週間」(聖ヨハネホスピスと共催 1月 三枝先生)

参加者 28名

【職員】【施設運営状況】【施設整備状況】

特になし。

5. 収益事業部門

施設名 : シニアハイムさくら (高齢者賃貸住宅)

【施設運営】

小金井の地で医療・介護・福祉サービスを展開している中で、入院や特養入所にいたる前の段階で小規模でも安心して生活できる場の形成が必要との考えから、高齢者賃貸住宅を提供することの意義があると考え本事業をスタートし3年目を迎えた。地域包括ケアシステムを構築する過程で老後を自宅又は小金井市内にて居住したいとの要望は大変高いが、全くの在宅独居の生活は不安だという高齢者の方の住まいが求められており、高齢福祉部門としても介護保険事業だけでは本来目指そうとしている高齢者の安心につながるサポートを充実できないという考えでこの事業を開始した。対象者は自立された方で在宅介護サービスを利用し自立生活可能な方とし、介護スタッフは配置せず管理人を配置し、ケアマネジャーは桜町ケアマネジメントセンターが基本的に受け持つという基本方針を進めることとなった。

これまでの経験から、利用者の前住居の整理、荷物の取捨選択といったところに時間をかなり要することがわかってきた。また入居後に身体の衰えなどで特養への入所に移ってしまうケースも予想していた以上に多いということがわかった。

そのようなこともあり、今年度は3室が空き状態となり、56%の入所率となった。

居室は全個室で5戸。現在、5名の受付ボランティアが月曜日～土曜日の10:30～16:00常駐し対応して頂いている。今後は、法人内のサービス連携（デイサービス、配食等）をより具体的に進めていきたい。

【平成27年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	平成27年度利用率
シニアハイムさくら	5室	2.8名	56.0%

【施設整備状況】

特になし

三 理事会並びに評議員会

1 理事会

第 288 回 平成 27 年 5 月 22 日（金） 本館戸塚ホール

- （報告）
- 1 新役員選任の報告について
 - 2 理事長専決事項の経過報告について
（平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）
- （議案）
- 1 平成 26 年度決算監事監査報告について
 - 2 平成 26 年度事業報告について
 - 3 平成 26 年度決算報告について
 - 4 評議員の任期満了に伴う改選について
 - 5 施設長の任命について
 - 6 諸規程の改訂について
 - (1)桜町聖ヨハネホーム 運営規程
 - (2)桜町高齢者在宅サービスセンター 運営規程
 - (3)本町高齢者在宅サービスセンター 運営規程

第 289 回 平成 27 年 6 月 1 日（月） 本館戸塚ホール

- （議案）
- 1 理事長の互選について
 - 2 理事長職務代理者の選任について

第 290 回 平成 27 年 11 月 20 日（金） 本館戸塚ホール

- （報告）
- 1 平成 27 年度上半期実績報告について
 - 2 理事長専決事項の経過報告について
（平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日）
- （議案）
- 1 平成 27 年度補正予算について
 - 2 基本財産の滅失及び取得について
 - 3 定款変更認可申請について
 - 4 諸規程の制定及び改訂について
 - (1)特定個人情報等取扱規程
 - (2)桜町病院 正規職員／嘱託職員／非常勤職員就業規則
 - (3)富士聖ヨハネ学園 正規職員／嘱託職員／非常勤職員就業規則
 - (4)障害者地域生活支援センター正規職員／有期雇用契約職員就業規則
 - (5)高齢福祉部門 正規職員就業規則
 - (6)障害者地域生活支援センター 給与規程
 - (7)高齢福祉部門 給与規程
 - (8)桜町病院 組織規程
 - (9)高齢福祉部門 組織規程
 - (10)障害福祉部門 組織規程
 - (11)清瀬聖ヨハネ短期入所 運営規程／重要事項説明書

- 第 291 回 平成 28 年 3 月 2 日 (水) 本館戸塚ホール
(議案) 1 富士聖ヨハネ学園の指導監査に関する改善指導について
2 諸規程の改訂について
(1)障害福祉部門山梨事業所 マイカー通勤規程
(2)小金井聖ヨハネ支援センター 生活介護運営規程

- 第 292 回 平成 28 年 3 月 23 日 (水) 本館戸塚ホール
(議案) 1 平成 28 年度事業計画について
2 平成 28 年度予算について
3 施設の人事について

理事及び監事

理事長	渡邊元子				
理事	百瀬雄次	柏本洋子	池田順子	横山文彦	竹川和宏
	藤井律治	小林宗光	角張洋和		
監事	村松光春	駒村 裕	小俣敏行		

2 評議員会

第 85 回 平成 27 年 5 月 22 日（金） 本館戸塚ホール

- （議案）
- 1 平成 26 年度決算監事監査報告について
 - 2 平成 26 年度事業報告について
 - 3 平成 26 年度決算報告について
 - 4 役員の任期満了に伴う改選について

第 86 回 平成 27 年 11 月 20 日（金） 本館戸塚ホール

- （報告）
- 1 平成 27 年度上半期実績報告について
- （議案）
- 1 平成 27 年度補正予算について
 - 2 基本財産の減失及び取得について
 - 3 定款変更認可申請について
 - 4 諸規程の制定及び改訂について
 - (1)特定個人情報等取扱規程
 - (2)桜町病院 正規職員／嘱託職員／非常勤職員就業規則
 - (3)富士聖ヨハネ学園 正規職員／嘱託職員／非常勤職員就業規則
 - (4)障害者地域生活支援センター正規職員／有期雇用契約職員就業規則
 - (5)高齢福祉部門 正規職員就業規則
 - (6)障害者地域生活支援センター 給与規程
 - (7)高齢福祉部門 給与規程
 - (8)桜町病院 組織規程
 - (9)高齢福祉部門 組織規程
 - (10)障害福祉部門 組織規程

第 87 回 平成 28 年 3 月 23 日（水） 本館戸塚ホール

- （議案）
- 1 平成 28 年度事業計画について
 - 2 平成 28 年度予算について

評議員

更田義彦	浜上光明	宮本 誠	篠原 熙	保坂正克
富田周次	西田和子	吉田昌克	藤田太郎	清水 洋
高橋正人	中村喜美子	渡邊元子	百瀬雄次	池田順子
横山文彦	竹川和宏	藤井律治	小林宗光	

四 経営会議

平成 27 年 4 月 22 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 27 年 2 月度）について
- 2 経営会議新メンバーについて
- （議案）1 5 月 8 日の決算監事監査について
- 2 マイナンバー制度について
- 3 地域におけるヨハネ会の役割について

平成 27 年 5 月 19 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 27 年 3 月度）について
- （議案）1 法人合同研修について
- 2 労働災害防止講習会の参加について
- 3 社会貢献事業について
- 4 法人レクリエーションについて

平成 27 年 6 月 16 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 27 年 4 月度）について
- （議案）1 法人合同研修について
- 2 法人レクリエーションについて
- 3 情報セキュリティ自己診断について

平成 27 年 7 月 21 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 27 年 5 月度）について
- ／第一四半期の収支状況について
- 2 法人合同研修について
- （議案）1 法人のレクリエーションについて
- 2 「職場紹介」の開催について
- 3 桜町ヨハネ祭の運営について

平成 27 年 8 月 18 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 27 年 6 月度）について
- 2 法人合同研修のアンケートについて
- 3 東社協社会貢献活動への事例掲載について
- （議案）1 ヨハネ祭開催に関する確認事項について（参加職員の取扱い、けが等への対応、保険加入）
- 2 法人レクリエーションの変更について
- 3 「市報こがねい」への広告掲載について
- 4 マイナンバー法への対応について
- 5 火災保険値上げに対する対応について
- 6 組織規程に関する協議日程について

- 7 ストレスチェック制度について
- 8 「職場紹介」第2回目について

平成27年9月15日（火）開催 本館戸塚ホール

- (報告) 1 月次報告（平成27年7月度）について
2 社会福祉法の一部改正記事について
3 自動車保険、火災保険の各分担について
4 桜町ヨハネ祭保険加入について
5 法人レクリエーション（ボーリング大会）の締切について
- (議案) 1 法人合同研修第2期について
2 財政援助団体監査について
3 マイナンバー制度の説明会について
4 組織規程について（病院）
5 補正予算作成シートについて
6 「小金井市わたしの便利帳」広告掲載について

平成27年10月20日（火）開催 本館戸塚ホール

- (報告) 1 月次報告（平成27年8月度）について
2 法人合同研修第2期とアンケート結果について
3 全社協大会宣言について
- (議案) 1 平成27年度上半期実績報告及び補正予算について
2 11月20日理事会の議案について（病院、高齢、障害）
3 第2回職場紹介の日程について
4 新会計基準取扱協議について
5 ボーリング大会費用について
6 桜町ヨハネ祭について
7 ボランティア募集ページの作成について
8 在宅医療・介護連携推進事業に関する小金井市の委託依頼について

平成27年11月17日（火）開催 本館戸塚ホール

- (報告) 1 月次報告（平成27年9月度）について
2 会計実務者協議について
- (議案) 1 平成27年度上半期実績報告及び補正予算について
2 在宅医療・介護連携推進事業に関する小金井市の委託依頼について

平成27年12月16日（火）開催 本館戸塚ホール

- (報告) 1 月次報告（平成27年10月度）について
2 法人レクリエーション収支報告について
- (議案) 1 桜町ヨハネ祭寄贈品について
2 電力自由化に対する対応について
3 有給休暇の付与について

平成 28 年 1 月 19 日（火）開催 本館戸塚ホール

- (報告) 1 月次報告（平成 27 年 11 月度）について
- (議案) 1 平成 28 年度事業計画及び予算作成スケジュールについて
- 2 電力自由化に関する対応について
 - 3 桜町ヨハネ祭の日程について
 - 4 法人合同研修について
 - 5 職場紹介について
 - 6 社会福祉法の一部改正について
 - 7 無料・低額診療について

平成 28 年 2 月 23 日（火）開催 本館戸塚ホール

- (報告) 1 月次報告（平成 27 年 12 月度）について
- (議案) 1 電力自由化の検討結果について
- 2 新入職員の歓迎会について
 - 3 個人面談について（高齢。障害）
 - 4 事業継続に必要な財産額資料について
 - 5 人事について
 - 6 理事会の議案について

平成 28 年 3 月 15 日（火）開催 本館戸塚ホール

- (報告) 1 月次報告（平成 28 年 1 月度）について
- (議案) 1 平成 28 年度事業計画及び予算について
- 2 入職式について
 - 3 職員面談シートについて（高齢、障害）

経営会議メンバー一覧

議長	渡邊元子（理事長）
法人本部	竹川和宏（事務局長）
医療部門	小林宗光（桜町病院院長）
	瀬口秀孝（桜町病院副院長）
	富田周次（桜町病院事務部長）
高齢福祉部門	相松幸子（高齢福祉部門統括施設長）
	藤井律治（桜町聖ヨハネホーム園長）
	芦澤みゆき（桜町聖ヨハネホーム副園長）
	鈴木治美（桜町高齢者在宅サービスセンター長）
	山極愛郎（本町高齢者在宅サービスセンター長）
障害福祉部門	角張洋和（富士聖ヨハネ学園長）
	小野貞行（富士聖ヨハネ学園事務管理部長）
	三浦和行（障害者地域生活支援センター長）
	勝見 正（障害者地域生活支援センター副センター長）